茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重して その能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理国語	2	全日課程・普通科・2学年	新　論理国語（三省堂）
科目の目標	（1） 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。（知識及び技能） （2） 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） （3） 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）		

時期 月 週	単元名		指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 1週	導入 言葉のはたらきを考える 「言葉は平等な内面を作り出す」	B読むこと	1	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ ア　言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。	小テスト 定期考査の素点	１教材文を読む。 ２「言葉は平等な意味を作り出す」とはどういうことか、考えたことを話し合う。	イ　社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（ア）
				②　思考・判断・表現 ≪読む力≫ カ　人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解したり、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
4月 2週 ～ 5月 2週	１ 論点を整理するために 「若者に友達プレッシャー」 「自分を捉え直す」 「他者を理解する」	B読むこと	6	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ウ　文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。 ≪情報の扱い方≫ ア　主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。	小テスト 定期考査の素点	1 「友達プレッシャー」とはどのようなことか。まとめる。 2 「同輩集団以外の多様な関係を取り結べる環境を整えていくことではないか」（22・1）と言えるのはなぜか、説明する。 3「自分を捉え直す」において「『本当の自分』という存在を、ここでも捏造してはならない」（28・8）のはなぜか、説明する。 4 「分人はすべて、『本当の自分』である」（30・6）とはどういうことか、まとめる。 5「他者を理解する」において「わかる、理解するというのは、感情の一致、意見の一致をみるということではない」（36・12）とはどういうことか、筆者の考えをまとめる。 6 「わからないままに身をさらし合う果てしのないプロセス」（38・8）とは何か、説明する。	ウ　学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪読む力≫ ア　文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。 カ　人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。 キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			

5月 3週 ～ 5月 4週	1 論点を整理するために 「情報を整理する」	A書くこと	5	① 知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 伝えたいことを明確にして、目的や意図に応じた適切な情報を収集する。 2 伝えたい情報を整理して、自分の考えを表出する。	ア 特定の資料について、様々な観点から概要などをまとめる活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］カ 書くこと（イ）
				② 思考・判断・表現 ≪書く≫ ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
6月 1週 ～ 6月 4週	2 正しく推論するために 「一人で爆笑」 「カタカナ語は享受すべきか」 「世界のあり方」	B読むこと	6	① 知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ ア 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。 ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。 ≪情報の扱い方≫ イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1 「『一人で爆笑する』という表現は誤りだ」（57・6）という主張に対して、筆者はどのように反論しているか、まとめる。 2 「カタカナ語は享受すべきか」という問いに対する筆者の考えを、本文にそって整理する。 3 「『正しい日本語』『美しい日本語』の主張」（68・9）とはどのようなものか、まとめる。 4 「『外来語』の排斥」（68・8）に対するあなたの考えをまとめる。 5 筆者が「ハサミ」の例を通して主張していることを説明する。 6 筆者が「世界像」という言葉を用いているのはなぜか、説明する。	イ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする活動。	論理・表現Ⅱ［思考力・判断力・表現力］エ 書くこと（イ）
				② 思考・判断・表現 ≪読む≫ イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。 ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 キ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使い、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
7月 1週 ～ 7月 2週	2 正しく推論するために 「文章をリフォームする」	A書くこと	5	① 知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 文章を修正し、より伝わるものにリフォームする。	ウ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動。	論理・表現Ⅱ［思考力・判断力・表現力］エ 書くこと（イ）
				② 思考・判断・表現 ≪書く≫ オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
7月 3週 ～ 9月 2週	3 事例の意味を探るために 「それぞれのしっくりくる言葉」 「多様な視点から考える」 「女性/男性だから〇〇」	B読むこと	7	① 知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。 エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。 ≪情報の扱い方≫ ウ 推論の仕方について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1 「それぞれのしっくりくる言葉」に「それぞれ」とあるのはなぜか。説明する。 2 筆者が事例をどのような順序であげているか整理し、その上でその効果を説明する。 3 筆者はアニータ・サーキージアンによって何に気づかされたのか、まとめる。 4 本文で取りあげられている事例の役割とその効果を整理する。 5 「粘り強く対話を続けるしかない」（99・14）という筆者の主張について、話し合う。 6 筆者の指摘する「異質平等論」（104・9）の問題点を整理する。 7 筆者の考える「自由」とはどのようなものか、まとめる。	ウ 学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］カ 書くこと（イ）
				② 思考・判断・表現 ≪読む≫ イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。 ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 キ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深め、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			

9月 3週 ～ 9月 4週	3 事例の意味を探るために 「意見を書く」	A書くこと	5	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 伝えたい内容の中心が明確になるよう、文章の構成や明確さを意識して意見をまとめる。 2 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などをふまえて、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。	イ　設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］カ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ イ　情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
10月 1週 ～ 10月 4週	4 構成を吟味し説得力を高めるために 「落語の中の経済学」 「ホンモノのおカネの作り方」 「「展示」が伝えるもの」	B読むこと	6	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ ア　言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。 エ　文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。 ≪情報の扱い方≫ ウ　推論の仕方について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1「『「千両みかん』の笑いのポイント」(126・1)は、どのようなところにあるのか。筆者の考えを説明する。 2「売買という交換によって人々は得をする」(127・4)のはなぜだろうか。筆者の考えを説明する。 3 東京版と上方版で「千両という値段をつける経緯が異なっている」(130・12)ことについて、筆者はどのように説明しているか。まとめる。 4「預り手形」(136・1)が金貨銀貨の代わりになるのはなぜか。その理由を二点あげて説明する。 5 具体例を手がかりに「ホンモノのおカネ」が生まれる「逆説の作用」(138・5)とは何か、まとめる。 6「ホンモノのおカネを作る」(139・7)には何が必要か指摘する。 7「陰鬱に科学するよりほかに道はない」(139・11)のはなぜか、話し合う。 8「三つの柱」(142・3)はどのように実現されたか、整理する。 9「この未来のためのさまざまな教訓」(151・2)とはどのようなものか、筆者の考えをまとめる。	エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ オ　関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。 カ　人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。 キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 ア　言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解し、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
11月 1週 ～ 11月 2週	4 構成を吟味し説得力を高めるために 「レポートを書く」	A書くこと	5	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 情報を整理し、伝えたい内容を明確にして、レポートを書く。 2 レポートの構成を理解して、効果的に伝わるようにする。	ウ　社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］カ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ エ　多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			

11月 3週 ～ 12月 3週	５信頼性を吟味するために 「情報の内容を吟味する」 「なぜ私たちは労働するのか」 「「すべり台社会」と”溜め”」	B読むこと	7	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 エ　文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。 ≪情報の扱い方≫ イ　情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1 若者の勤労意識に関する調査結果を読んで、考えを述べ合う。 2 「『やりがいのある仕事』という言葉は、年長世代と若者世代の間では語義を異にしている」（171・5）とあるがどういうことか、整理しよう。 3 「受験勉強とバイトという二種類の『ワーク』の経験から導きだした労働観」（173・14）とはどのようなものか。それぞれ説明する。 4 筆者の考える「労働の本質」（174・14）とはどういうことか、まとめる。 5 「すべり台社会」（178・2）とは具体的にどういうことか、まとめる。 6 「〝溜め〟という言葉で語ってきた」（183・1）とあるが「〝溜め〟」とは何か、整理する。 7 アマルティア・センの引用は筆者の論点にどのような効果をもたらしているか、具体的に説明する。	エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ ウ　主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 オ　関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。 キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
1月 2週 ～ 1月 4週	５信頼性を吟味するために 「投書を書く」	A書くこと	5	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 主張を支える論拠として情報の妥当性や信頼性を吟味し、投書を書く。 2 読み手にわかりやすい表現の工夫をまとめる。	イ　設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりする活動。	英語コミュニケーションⅡ ［思考力・判断力・表現力］カ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ イ　情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
2月 1週 ～ 2月 4週	６隠れた前提を探すために 「地球上の「旅人」」 「誰かの靴を履いてみること」 「スポーツとナショナリズム	B読むこと	7	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ ア　言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。 イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ≪情報の扱い方≫ ウ　推論の仕方について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1 「私にとってはどこもかしこも『アウェイ』……、それが実は心地よい。」（202・7～8）とあるが、なぜそのように考えるのか。筆者の幼少期の体験を整理しながら説明する。 2 筆者の考える「地球上の『旅人』」（205・11）とはどのように生きる人か、まとめる。 3 「誰かの靴を履いてみること」（210・5）とはどういうことか、まとめる。 4 「息子」との会話が本文にどのような効果をもたらしているか、まとめる。 5 「十一歳の子どもたちがエンパシーについて学んでいるというのは特筆に値する」（213・12）と述べる筆者の思いを説明する。 6 「このようにオリンピックや……見いだされる。」（218・2.3）とあるが、「スポーツとナショナリズムとの密接な関係」とはどういうことか。本文の具体例に基づいて説明する。 7 スポーツにおけるナショナリズムが「『野蛮化』に結びつく危うさを常に持ち合わせている」（222・14）のはなぜか。その理由を説明する。	エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ ウ　主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 オ　関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。 キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 推論の仕方について理解を深め、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
3月 1週 ～ 3月 3週	６隠れた前提を探すために 「レビューを書く」	A書くこと	5	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 主張を支える論拠として情報の妥当性や信頼性を吟味し、投書を書く。 2 読み手にわかりやすい表現の工夫をまとめる。	イ　設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりする活動。	論理・表現Ⅱ ［思考力・判断力・表現力］エ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ イ　情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			

領域ごとの時間数の計指導	話すこと･聞くこと	0
	書くこと	30
	読むこと	40
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重して その能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
文学国語	2	全日制・普通科・2学年	新　文学国語（三省堂）

科目の目標	言葉による見方考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑴生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ⑵深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ⑶言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 2～3 週	1 発想と感覚　文学の言葉を感じ取る ●言葉の響きを味わう 「二十億光年の孤独」	B読むこと	5	①知識・技能 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。（(1)ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検（abc） ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1 「宇宙はひずんでいる／それ故みんなはもとめ合う」、「宇宙はどんどん膨んでゆく／それ故みんなは不安である」とは、どういう状況を描いているのか話し合う。 2 「僕」とは何を表現しているのか、考える。 3 「二十億光年の孤独に／僕は思わずくしやみをした」という表現には、どんなおもしろさがあるか、考えをまとめる。	カ　作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。	「二十億光年の孤独」（谷川俊太郎） 「虹の雌雄」（蜂飼耳） 外国語科「英語コミュニケーションⅡ」２（３）ウ（ア）との関連
				②思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。（Ｂ(1)ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
	●発想の展開を捉える 「虹の雌雄」			③主体的に学習に取り組む態度 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えたりすることに向けた粘り強い組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	1　虹をめぐる筆者の思いと賢治の詩とは、どのように響き合っているか、まとめる。 2 「虹が見せる熱のない炎」（27・7）とは何を表現しているか、また、それをなぜ「畏れながら慕う」（27・7）のか、短い文章にまとめる。		
4月 4週～ 5月 2週	2 読みの深まり　解釈の多様性を楽しむ ●さまざまな読み方を考える 「予感」	B読むこと	7	①知識・技能 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。((2)「読書」イ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検（abc） ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1 「わたし」の行動と気持ちの変化を、物語の展開に即して整理する。 2 「わたし」はどのような人物として描かれているか。「いつか、これに似た何かが起こるという予感はあった。」（32・4）という表現や「わたし」の言動を手がかりに、まとめる。 3 「もう一度実家に電話した」（35・12）ときに、電話の相手の声が二転三転しているように「わたし」が感じたのはなぜか、考える。	ア　作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。	「予感」
				②思考・判断・表現 ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(A(1)エ)	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
	●読みの広がりを追う 「雉始雊」			③主体的に学習に取り組む態度 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	1 「わたし」と「サネスケ」はどのような人物として描かれているか、簡潔にまとめる。 2 「わたし」や「サネスケ」にとって、「雉」はどのような意味をもっているのかを話し合う。 3　物語の進行に伴って、この小説の全容がしだいに明らかになっていく過程を、箇条書きにして整理する。		「雉始雊」
5月 3～4 週	表現プラザ1 みんなでつなぐリレー小説	A書くこと	4	①　知識・技能 我が国の言語文化 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。（(2)「読書」イ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検（abc）	１　グループでリレー形式の小説を書いて、相互に感想を交換する。	エ　グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む活動。	「冒頭書き出し例集」 外国語科「英語コミュニケーションⅡ」２（３）カ（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。（Ａ(1)イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			

6月 1～4 週	3 人間の姿と心　心情の表現に読みひたる	B読むこと	10	①　知識・技能 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1 「虎」になる前の李徴はどのような人物として描かれているか、読み取ったことをまとめる。	ア　作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。	「山月記」 外国語科「英語コミュニケーションⅡ」２（３）ウ（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ(1)カ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）	2　袁傪はどのような人物として描かれているか。また、李徴にとって袁傪はどういう存在か、簡潔にまとめる。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	3　李徴は自分が虎になってしまった理由をどのように捉えているか。次の表現に留意し、考える。 ①理由もわからずに……生き物のさだめだ。（72・10） ②ともに、我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。（77・3） ③事実は、才能の不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧と、……おれのすべてだったのだ。（77・13） ④飢え凍えようとする妻子のことよりも、……こんな獣に身を堕とすのだ。（79・11） 4　最後に李徴が叢を出て、自らの姿を袁傪の目にさらしたのはなぜだろうか、考えてまとめる。		
					・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1　次の①～⑤は、それぞれどのような様子を表現しているか、他の言葉で説明する。 ①びょおびょお泣きながら（86上・2） ②匂やかな風に、毛をそよがせて目をほそめる（86下・6） ③無愛想にぼそっと言って（87上・15） ④蚊のなくような涙声で（87下・1） ⑤晴れたま昼の、冬の匂いがした(89下・2)	ウ　小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。	「デューク」
7月 1～3 週	4 作品の挑戦　作家のストラテジーを読み解く	B読むこと	5	①　知識・技能 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。((1)エ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1 「今までの少年たち」（101・2）に対して、老夫婦はどのような思いをもっていたのか。「ありがとう」（102・12）を手がかりにして、考えをまとめる。	ア　作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。	「少年という名前のメカ」
				②　思考・判断・表現 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。（Ｂ(1)イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）	2 「主とおかみさんの胸の内に共鳴したのか、暖炉の炎が激しくはぜる」（99・15）という表現の効果について、考える。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	3 「主」（=男性の老人）、「少女」（=若い女性）を特徴づける言葉遣いを抜き出す。	イ　作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりする活動。	「バースディ・ガール」
						1　最後の場面で老人の言葉が繰り返されることに、どのような効果があるか、考える。 2　この作品で、語り手がどのように交代しているかを整理する。また、そのことがどのような効果をもたらしているか、考えをまとめる。		

9月 1～3 週	表現プラザ2　想像からの語り	A書くこと	5	①　知識・技能 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。((1)ア)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1　作者や登場人物の心情を自由に想像して、詩を一人称で語る文章に書き換え、お互いに批評する。	イ　登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする活動。	「未知へ」 「夕焼け」 「売炭翁」 外国語科「英語コミュニケーションⅡ」２（３）カ（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。（A(1)ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			
9月 4週～ 10月 4週	5 意味と解釈　表現の意味を捉え直す	B読むこと	8	①　知識・技能 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。((1) ウ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1　次の点について考えをまとめる。 ①「私」（=先生）はＫのことをどう捉えていたか、また、「お嬢さん」に恋をしたことにより、それがどのように変わったか。 ②「私」（=先生）と「お嬢さん」は、それぞれ相手に対してどのような感情を抱いていたか、考えをまとめる。 2　次のときの「私」（=先生）の心情を考える。 ①「精神的に向上心のないものはばかだ」（156上・7） ②「おれは策略で勝っても人間としては負けたのだ」（169上・7）	ア　作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。	「こころ」 外国語科「英語コミュニケーションⅡ」２（３）ウ（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。（B(1)オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）	3 次の言動をした時のＫの心情を説明する。 ①「ばかだ」とやがてＫが答えました。「僕はばかだ」（157上・8） ②すると彼は卒然「覚悟？」と聞きました。……「覚悟、―覚悟ならないこともない。」とつけ加えました。（158下・4）		
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	4 次の表現が象徴・暗示することを考える。 ①私はちょうど他流試合でもする人のようにＫを注意して見ていたのです。（155下・5） ②私にはＫがその刹那に居直り強盗のごとく感ぜられたのです。（157上・11 ） ③「それでも私はついに私を忘れることができませんでした。」（170上・7）		
11月 1週～ 12月 3週	6 近代の創造　近代の文章に価値を見いだす	B読むこと	8	①　知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ((2)ア)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1　全体を四つの部分に分け、「わたくし」の行動と心情の変化をまとめる。 2　次の詩句には、「わたくし」のどのような心情があらわれているか、説明する。 ①うすあかくいつそう陰惨な雲 ②みなれたちやわんのこの藍のもやう ③やさしくあをじろく燃えてゐる ④あんなおそろしいみだれたそらから／このうつくしい雪がきたのだ 3 「（あめゆじゆとてちてけんじや）」の繰り返し表現は、この詩にどのような効果をもたらしているか、また、「（Ora Orade Shitori egumo）」、「（うまれでくるたて……うまれてくる）」の表記の仕方には、どのような効果があるか、それぞれ説明する。	オ　テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評する活動。	「永訣の朝」
				②　思考・判断・表現 ・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。（B(1)ウ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）	1　できごとの経過にそって、「美登利」の気持ちの推移をまとめる。 2 「美登利」と「信如」は、それぞれどのような人物として描かれているか、まとめる。		「たけくらべ」
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	1 「子規の二つの顔」とは、どのような顔か、また、なぜそのような面が見えてきたといっているのか、考える。 2　子規の絶筆三句の滑稽味について、どのように捉えているか、考える。		「正岡子規もう一つの顔」

1月 2～4 週	表現プラザ3　現代に甦る歌物語	A書くこと	8	①　知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ((2)ア)	・授業中の発言や課題の完成度の点検（abc） ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1　和歌・俳句からストーリーを想像して現代版歌物語を書き、交流する。	ウ　古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。	「古典和歌・近世俳句」
				②　思考・判断・表現 ・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。（A(1)ウ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			
2月 1週～ 3月 3週	7 史実と虚構　歴史の語り方について考える	B読むこと	10	①　知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ((2)ア)	・授業中の発言や課題の完成度の点検（abc） ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	1　「項羽と劉邦」の本文（228～231ページ）で描かれる両者の争いの経過と結末について、年表として、簡潔にまとめる。 2 項羽の敗因と劉邦の勝因について、本文に書かれた内容を200字程度でまとめる。		「項羽と劉邦―『史記』を読む」
				②　思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。（B(1)オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）	1 筆者の評論と『大鏡』の原文とを対照させながら、事件の経過を時系列にそってまとめる。 2 『大鏡』では、兼家や道兼をどのような人物として描いているか。本文中の『大鏡』原文をあわせて読み、考えたことをまとめる。	カ　作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。	「花山天皇の退位―『大鏡』を読む」
				③　主体的に学習に取り組む態度 例）文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）	1 「歴史（日本紀）」「物語」「歴史物語」は、どのような意味で使われているか、考える。 2　『栄花物語』の作者が、「両者を統一するという荒わざを試みた」（248下・5）というのはどういう意味か、考える。		発展探究「歴史から物語、そして歴史物語へ」

領域ごとの時間数の計指導	話すこと・聞くこと	0
	書くこと	17
	読むこと	53
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重して その能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
古典探究	2	全日制・普通科・2学年	新編古典探究（東京書籍）

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （2）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （3）言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期 月 週	単元名		指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 第2週 ～第4週	古文 説話に親しむ(1) ・宇治拾遺物語 「小野篁広才のこと」 漢文 故事と小話(1) ・戦国策「蛇足」 ・世説新語「断腸」	A 読むこと	4	①　知識・技能 古文分野：古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア 漢文分野：古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。（２）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○言語文化での学習を踏まえ、説話が出来事と人物造型のおもしろさを語ることを押さえる。 ・篁が「子」文字をどう読み解いたのかを通して、言葉遊びのおもしろさを読み取る。 ・帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめ、帝と篁の関係性について考える。	○文字の異なる読み方を用いた言葉遊びに関して調べ、どのような点を生かしているのかを相互に説明し合う活動。A(２)ア ○漢文を題材とした日本の文芸について調べ、中国古典の受容について報告する活動。A(２)オ	国語科（言語文化）における知識及び技能(１)アとの関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと(１)ア 漢文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと(１)エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)	○言語文化で学習した故事成語や覚えている故事成語を発表し、故事成語について確認する。 ・故事成語のいわれや意味について調べる。 ・故事成語の現代における使い方を調べ、自らも短文を作り相互に披露し合う。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、内容を正確に読み取ろうとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
5月 第1週 ～第4週	古文 説話に親しむ(2) ・十訓抄「大江山の歌」 ・徒然草「空を飛ぶ倉」 漢文 故事と小話(2) ・呂氏春秋「知音」 ・五雑組「畏饅頭」	A 読むこと	6	①　知識・技能 古文分野：古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア 漢文分野：古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。（２）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○和歌を含んだ説話を読み取り、展開のおもしろさを捉える。 ・小式部内侍のとった行動を読み取り、和歌に込められた思いを理解する。 ○絵巻の内容も踏まえながら説話を読み取り、内容についての理解を深める。 ・絵巻の絵が、本文のどの場面を描いたものかを考える。	○様々な説話集について、興味・関心をもった内容を発表し合う活動。A(２)ア ○漢文や和歌を題材とした古典落語を調べ、その紹介文を書く活動。A(２)イ	国語科（言語文化）における知識及び技能(１)アとの関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと(１)ア 漢文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと(１)エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)	○漢文の読み方を確認し、興味を持った内容を調べることで理解を深める。 ・脚注を参考にしながら本文を現代語訳し、窮書生が饅頭を食べるために立てた計略を捉える。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、内容を正確に読み取ろうとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
6月 第1週 ～第4週	古文 随筆を読む(1) ・徒然草 「丹波に出雲といふ所あり」 漢文 唐詩 ・盛唐の詩人（李白・杜甫ほか） ・中唐の詩人（白居易）	A 読むこと	8	①　知識・技能 古文分野：古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（1）ウ 漢文分野：古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。（1）エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・聖海上人の言葉の変化に沿ってその心情を読み取り、この話のおもしろさはどういうところにあるか考え、話し合う。 ○漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。 ・それぞれの作者について理解する。 ・それぞれの詩の内容を捉える。 ・唐詩の詩形、押韻、対句を確認し、表現効果について考える。	○徒然草の成立と時代背景について調べ、作者独自の観点や人間観について話し合う活動。A(２)ア ○印象に残った詩を挙げ、表現技法を参考にして自身の体験や思いを表現し、発表により相互に評価し合う活動。A(２)ウ	芸術(音楽)における内容A(３)、B(１)との関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。読むこと(１)カ 漢文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。読むこと(１)イ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文分野：進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。 漢文分野：進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			

7月 第1週 ～第3週	古文 随筆を読む(2) ・徒然草 「花は盛りに」 漢文 文(1) ・雑説(韓愈)	A 読むこと	7	①　知識・技能 古文分野：古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)ウ 漢文分野：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。(2)イ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○随筆を読み比べ、作者の考え方の違いについて考察する。 ・作者が花や月の美についてどのように考えているかを読み取る。 ・「兼好法師が詞のあげつらひ」が「花は盛りに」を批判した文章であることを踏まえ、花や月についての考え方の違いをまとめる。	○同じ題材に関する複数の作品、徒然草と玉勝間を読み比べ、価値観や思想、時代背景などの相違点について議論を通して理解を深める活動。A(2)イ ○馬の比喩を用いた韓愈の主張から、人間に対して得られる具体的な事例について推察し、論述する活動。A(2)キ	外国語(論理表現Ⅰ)における思考力、判断力、表現力(2)アとの関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。読むこと(1)ウ 漢文分野：「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。読むこと(1)ウ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)	○語句の意味や修辞に注意して内容を読み取り、ものの見方や感じ方を広げる。 ・作者は伯楽と千里馬（名馬）の比喩によって何を主張しようとしたのかを考える。 ・「雑説」の内容について、現代に通じる点を考え、話し合う。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：修辞などに注意しながら進んで文章の内容を読み取り、学習課題に沿って、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
9月 第1週 ～第4週	古文 随筆を読む(3) ・方丈記「ゆく河の流れ」 漢文 文(2) ・桃花源記(陶潜)	A 読むこと	7	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ 漢文分野：先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○表現の特色に注意しながら、随筆に表れている作者の考えを的確に捉える。 ・人と栖、ゆく河の流れと淀みに浮かぶうたかたとの類似点について考える。 ・無常を争ふさまとはどのようなことか考える。	○方丈記で描かれる無常観について、作者の災害体験や、生きた時代の戦乱との関わりなどについて意見文を書く活動。A(2)カ ○現代の小説や映画などから、桃源郷のような「ユートピア」を取り上げた作品と比較し、着想の共通点などを話し合う活動。A(2)ア	公民(倫理)における内容A(1)、B(2)との関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。読むこと(1)イ 漢文分野：「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。読むこと(1)オ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)	○語句の意味や修辞に注意して内容を読み取り、ものの見方や感じ方を広げる。 ・桃花源の村が、どのような村として描かれているかを箇条書きにして確認する。 ・作者の陶潜がこの作品を書いた思いについて考え、話し合う。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：修辞などに注意しながら進んで文章の内容を読み取り、学習課題に沿って、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
10月 第1週 ～第4週	古文 作り物語を読む(1) ・竹取物語「天の羽衣」 漢文 史記を読む(1) ・四面楚歌	A 読むこと	7	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)イ 漢文分野：時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。(2)ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○作り物語の内容を叙述に即して読み取り、そこに表れた人々の思いを捉える。 ・全文を通読し、概略を捉える。 ・かぐや姫の言動に注目し、その人物像について考え、手紙と歌に込めた心情を理解する。 ・天の羽衣を着ることによる、かぐや姫の変化について理解する。 ○紀伝体による歴史叙述を知り、人物の行動や心情、出来事について感じたことを話し合う。 ・句法に注意して書き下し、現代語訳する。 ・楚歌が項羽を驚かせた理由を把握する。 ・抜山蓋世の詩にこめられた項羽の心情について考える。	○世界各地に分布する羽衣伝説を調べ、竹取物語の独自性について報告書にまとめる活動。A(2)イ ○史記に描かれた、項羽と劉邦の争いに関連する動画などを参考に、項羽の情感を生かせるようセリフを朗読し合う活動。A(2)エ	地理歴史(歴史総合)における内容A(1)(2)との関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと(1)エ 漢文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。読むこと(1)イ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：進んで登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉え、学習課題に沿って感じたことを話し合おうとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
11月 第1週 ～第4週	古文 作り物語を読む(2) ・竹取物語「富士の山」 漢文 史記を読む(2) ・項王自刎	A 読むこと	8	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)イ 漢文分野：時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。(2)ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○作り物語の内容を叙述に即して読み取り、そこに表れた人々の思いを捉える。 ・全文を通読し、概略を捉える。 ・かぐや姫に去られた帝の心情と行動について考える。 ・富士の山の名前のいわれについて、本文の内容をまとめる。 ・天の羽衣を着ることによる、かぐや姫の変化について理解する。 ○紀伝体による歴史叙述を知り、人物の行動や心情、出来事について感じたことを話し合う。 ・句法に注意して書き下し、現代語訳する。 ・項羽が笑って烏江の亭長の申し出を辞退した理由について理解し、その笑いとはどのような笑いか、話し合う。	○作品の伝奇的特質をふまえ、昔話などの話型の普遍性と、それを生んだ人々の思いについて話し合う活動。A(2)ア ○後世の人々による項羽の生き方の肯定的・否定的な捉え方を、唐と北宋の時代の詩から知り、自身はどのように捉えるかを論述する活動。A(2)オ	地理歴史(歴史総合)における内容A(1)(2)との関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと(1)エ 漢文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。読むこと(1)イ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：進んで登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉え、学習課題に沿って感じたことを話し合おうとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
12月 第1週 ～第3週	古文 和歌の世界 ・小倉百人一首 漢文 中国の知恵(1) ・「出藍誉」(荀子) ・「侵官之害」(韓非子)	A 読むこと	6	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ 漢文分野：先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○和歌を多面的・多角的な視点から評価することを通して、言語文化について自分の考えを深める。 ・小倉百人一首について、収録された歌の分類などを理解する。 ・和歌を読み比べ、その内容や技法などについて理解を深める。 ・歌合の持つ知的遊戯性について理解する。 ○古代中国のさまざまな考え方に触れ、寓話や故事成語の意味について理解を深める。 ・それぞれのたとえ話が、元のものよりも優れたものとなっている例と、ものの性質は後天的に矯正することができる例であることを読み取る。 ・本文の内容に即して登場人物の言動を整理し、韓の昭侯が典衣と典冠の両方を罰した理由をまとめる。	○統一した歌題を設定し、グループごとに和歌を競作して、歌合として競い合う活動。A(2)ウ ○「出藍誉」に由来する日本の諺、及び親子関係に言及した同様の意味の日本の諺について調べ、報告書を書く活動。A(2)カ	言語文化における思考力、判断力、表現力(2)エとの関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。読むこと(1)ク 漢文分野：「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(1)ウ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文分野：進んで和歌を多面的・多角的な視点から評価し、学習課題に沿って言語文化についての自分の考えを深めようとしている。 漢文分野：進んで古代中国のさまざまな考え方に触れ、学習課題に沿って寓話や故事成語の意味について理解を深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			

1月 第2週 ～第4週	古文 日記を読む(1) ・土佐日記 「馬のはなむけ」「帰京」 漢文 中国の知恵(2) ・「塞翁馬」(淮南子) ・「杞憂」(列子)	A 読むこと	5	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)イ 漢文分野：時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。(2)ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○仮名文字による日記としての土佐日記の内容と作者紀貫之について、文学史上でどのような存在であるかを理解する。 ・「馬のはなむけ」における、朧化表現、機知を感じさせる表現を指摘し、この作品の特色を考える。 ・「帰京」における、和歌を詠むに至った経緯と心情、および和歌の内容を読み取る。 ○寓話の出典が書かれた時代と当時の価値観について理解する。 ・句法に注意して書き下し、語彙を調べて現代語訳する。 ・「塞翁馬」「杞憂」という故事成語の意味や、我が国での使われ方を理解する。 ・各寓話を時代順に並べ替え、時代ごとに要求される思想が変化していることを確認する。	○グループで協力しあい、当時の旅のしきたりに似せて、文語で自分たちの修学旅行日記を創作する活動。A(2)ウ ○寓話が生まれた春秋・戦国時代という時代の混乱した価値観について調べ、報告書を書く活動。A(2)オ	言語文化における思考力、判断力、表現力(2)エとの関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと(1)ア 漢文分野：「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。読むこと(1)カ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文分野：進んで作品の表現や形式の特徴について理解し、学習課題に沿って作者の意図を読み取ろうとしている。 漢文分野：進んで古代中国のさまざまな考え方に触れ、学習課題に沿って寓話や故事成語の意味について理解を深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
2月 第1週 ～第4週	古文 日記を読む(2) ・更級日記「物語」 漢文 三国志の世界(1) ・「水魚之交」	A 読むこと	7	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)イ 漢文分野：先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○日記文学は現代の日記とどのように異なるのか確認し、当時の女性たちが日記文学を著した理由について考える。 ・本文を読み、源氏物語を手に入れた経緯と、作者の気持ち、物語を読む感動をまとめる。 ・「まづいとはかなく、あさまし。」という表現に注目して、少女時代の物語耽溺に対する晩年の思いを知る。 ○歴史上の人物を描いた作品を通し、登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方を考える。 ・句法に注意して本文を書き下し、現代語訳する。 ・諸葛亮はどのような人物であるのか、簡潔にまとめ、天下三分之計の要点を具体的に発表する。 ・諸葛亮の献策を劉備はどう評価したのか、考える。	○物語の作中人物に対する憧れや共感について、現代のバーチャルな世界でのキャラクターとの交流と比べ合わせ、発表したり議論したりする活動。(2)ア ○三国志に由来する名句・名言などについて文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。(2)キ	地理歴史(歴史総合)における内容A(1)(2)との関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。読むこと(1)キ 漢文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと(1)エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：進んで本文の内容や展開を的確に捉え、学習課題に沿って心情を読み取り、生き方・あり方について考えようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
3月 第1週 ～第3週	古文 軍記物語を味わう ・平家物語「壇の浦の合戦」 漢文 三国志の世界(2) ・「死諸葛走生仲達」	A 読むこと	5	①　知識・技能 古文分野：古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ 漢文分野：先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○朗読などを通して、内容の解釈を深めたり、表現の特色について理解を深めたりする。 ・全体の構成を意識しながら音読し、あらすじや場面、各人物の心情をつかむ。 ・知盛の発言に込められた心情と教経の受け止め方を読み取り、それぞれの人物像の描かれ方について考える。 ・死に直面する人物が何を考え、何を思っていたのかをまとめる。 ○歴史上の人物を描いた作品を通し、登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方を考える。 ・各段落を音読し、書き下し文にする。 ・現代語訳し、諸葛亮と司馬懿の考えを把握する。 ・司馬懿の心理を考える。 ・参考の詩を読んで、諸葛亮がどのように後世の日本人にイメージされていたかを捉える。	○壇の浦の滅亡を描いた能や歌舞伎について調べ、その内容の解釈を踏まえて群読などにより朗読する活動。(2)エ ○三国志を取り上げた作品において、諸葛亮などの人物造型について調べ、気づいたことを論述する活動。（2）イ	地理歴史(歴史総合)における内容A(1)(2)との関連。
				②　思考・判断・表現 古文分野：「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと(1)ア 漢文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと(1)エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 古文・漢文：進んで本文の内容や展開を的確に捉え、学習課題に沿って心情を読み取り、生き方・あり方について考えようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			

領域ごとの時間数の計		
指導	話すこと・聞くこと	
	書くこと	
	読むこと	70
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （地理歴史科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校
教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 社会的事象を、位置や空間的な広がり、歴史的な視点をもとに、人間の営みと関連づけて理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 社会的な見方・考え方をもとに、課題を追究したり、解決したりする力を習得する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家および社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
日本史探究	2	全日制・普通科・2学年	詳説日本史(山川出版社)

科目の目標	（1）日本の歴史に関わる諸事象について、地理的要因、他国との関係性も含めて理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 （2）日本の歴史に関わる諸事象について、意味や意義などを多面的・多角的に考えたり、それを取捨選択して効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 （3）日本の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 ～5月 2週	第Ⅰ部　原始・古代 第1章　日本文化のあけぼの 第2章　古墳とヤマト政権	8	①　知識・技能 旧石器文化～古墳文化の成立と変容を理解している。出土品から得られる情報を読み取る技能を身につけている。	小テスト・定期考査	気候・地形の変化にも着目しながら、原始日本の人々の生活について探究する。現在の考古学の研究結果や考古資料の考察等も踏まえて多面的にヤマト政権の成立について考える。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究との関連。
			②　思考・判断・表現 出土品や中国の歴史書などの考古資料から原始・古代の特徴について多面的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、原始・古代の日本文化の特色を明らかにしようとしている。	発表・レポート			
5月 3週～ 6月3 週	第Ⅰ部　原始・古代 第3章　律令国家の形成	10	①　知識・技能 中国や朝鮮など東アジア情勢の変容の影響に着目して、律令体制の成立などを理解している。	小テスト・定期考査	東アジアと日本の関係を踏まえて、大陸文化の受容と律令国家の成立について多面的に考察する。	グループでの発表に向けた議論・調査およびグループ発表における質疑応答等。	古典探究（漢文分野）との関連。
			②　思考・判断・表現 仏教の受容などの大陸との交流について、資料をもとに根拠を示して表現している。律令体制整備の過程について考察している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、日本の置かれた状況を鑑み、律令体制の成立過程を明らかにしようとしている。	発表・レポート			
6月 4週 ～9月 2週	第Ⅰ部　原始・古代 第4章　貴族政治の展開	12	①　知識・技能 平安遷都前後の諸政策や藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	小テスト・定期考査	前の時代に引き続き、大陸との関係の中での日本政治について考察するほか、国風文化などに代表される日本独自の発展についても探究する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	古典探究（平安文学の分野）との関連。
			②　思考・判断・表現 中央における藤原北家の台頭、これまでの時代の政治とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	発表・レポート			
9月 3週 ～10月 4週	第Ⅱ部　中世 第5章　院政と武士の躍進	12	①　知識・技能 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	小テスト・定期考査	古代から中世へと変化していく権力のあり方について考察を深めるとともに、新しい時代の担い手としての武士の台頭について探究する。	グループでの発表に向けた議論・調査およびグループ発表における質疑応答等。	公共（倫理分野）と関連。
			②　思考・判断・表現 貴族政治の変容や武士が台頭する契機などを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	発表・レポート			
11月 1週 ～1月 3週	第Ⅱ部　中世 第6章　武家政権の成立	14	①　知識・技能 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。	小テスト・定期考査	初めての武家政権である鎌倉幕府の構造について理解を深めるとともに、武家政権と朝廷との関係性について承久の乱の前後に着目しながら探究する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共（倫理分野）と関連。
			②　思考・判断・表現 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
1月 4週 ～3月 4週	第Ⅱ部　中世 第7章　武家社会の成長	14	①　知識・技能 室町幕府の政治とその下での農村や都市の成長を理解している。下剋上の風潮など、流動的社会の動きを理解している。	小テスト・定期考査	室町政権の動揺が、社会の流動化を生み、戦国時代へ向かっていく流れを理解する。その結果、中世社会から近世へ世の中が変容していく様子を、各種資料等を活用して探究する。	グループでの発表に向けた議論・調査およびグループ発表における質疑応答等。	古典探究（武家文学の分野）との関連。
			②　思考・判断・表現 南北朝の動乱から室町幕府の成立、動揺、さらに下剋上の風潮について考察する。応仁の乱以降、戦国大名や各地に展開した都市について考察する。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 武家政権の変容、戦国時代の形成や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。	発表・レポート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（公民科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
公共	2	全日制普通科2学年	高等学校改訂版公共（第一学習社）
科目の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 1週 ～5月 1週	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④キャリア形成と自己実現 ⑤伝統や文化とのかかわり	10	①　知識・技能 ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方についてライフサイクルや青年期の発達課題を理解できる。	・定期考査	・青年期の発達課題を捉え、自らのライフプランを考え、発表する。 ・ジェンダー問題とマイノリティなど多様性を認め合う社会を構想する。	・青年期の発達課題を捉え、自らのライフプランを考え、発表する。	家庭科
			②　思考・判断・表現 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方について多面的・多角的に考察できる。	・課題レポート作成、発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し伝統や文化、先人の取組や知恵に触れ自らの価値観を形成し他者の価値観を尊重できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート、課題、問題集の提出状況			
5月 2週 ～5月 4週 日	①人間の尊厳と平等 ②個人の尊重 ③民主政治の基本的原理 ④法の支配 ⑤自由・権利と責任・義務	7	①　知識・技能 ・ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど古今東西の先人の取り組み知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解できる。 ・自然権の考え方を理解でき、マグナカルタや権利章典などの人権保障のあゆみや自由権の成立、生存権など社会的基本権の成立などを理解できる。	・定期考査	・古今東西の先人の取り組みを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を意欲的に考察できる。 ・世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを考察できる。	古今東西の先人の取り組みを原典の一節を読み、哲学対話を用いて話し合う。 ・議院内閣制、大統領制、権力集中制など世界の政治体制を比較し、制度的特徴を話し合う。	
			②　思考・判断・表現 ・世界の政治体制、日本国憲法などを通して、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを考察できる。 ・ホッブス、ロック、ルソーの社会契約説を比較、考察できる。	・課題レポート作成、発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 古今東西の先人の取り組みを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を意欲的に探究できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート・			
6月 1週 ～7月 3週	①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由・平等と法・規範 ④法をよりよく変えていくために	8	①　知識・技能 ・法やルールは、国家が制定し、法は強制力が伴うことを捉え、少数者に配慮したルールづくりが必要があることを理解できる。	・定期考査	・法やルール、司法制度に関する学習を通してよりよい社会を構想できる。	模擬裁判を行い、司法制度に関する知識を用いて、話し合う。	
			②　思考・判断・表現 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を多面的・多角的に考察できる。	・課題レポート作成、発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・法やルールに関心をもち、望ましい社会のあり方について主体的に構想できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート・			
9月 1週 日～1 0月 2週 日	①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成 ③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉 ⑥国家と国際法 ⑦国境と領土問題 ⑧国際連合の役割と課題	10	①　知識・技能 ・小選挙区制度と比例代表制度などの選挙制度を理解し、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割を理解する。	・定期考査	・模擬選挙や選挙制度に関する学習を通して、主体的に政治に参加し、よりよい社会を構想できる。	・模擬選挙や選挙制度に関する学習を通して、主体的に政治に参加し、よりよい社会を構想する。	
			②　思考・判断・表現 ・小選挙区制度、比例代表制、大選挙区制などの選挙制度を比較し多面的、多角的に考察できる。 ・民主政治は世論の影響を受け、マスメディアが世論形成に影響を与え、世論操作が行われる危険性があることを把握し、メディアリテラシーについて考察できる。	・課題レポート作成、発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・選挙制度や内閣、国会制度に関心をもち、望ましい政治のあり方を主体的に構想できる。 ・国際社会が平和維持に関する取り組みを調査し、望ましい国際社会のあり方を主体的に構想できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート・課題、問題集の提出状況			
10月 3週 日～ 11月 1週	①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和 ③今日の国際社会 ④人種・民族問題と地域紛争 ⑤国際社会における日本の役割	6	①　知識・技能 ・日本国憲法の平和主義の私たちが果たすべき責任を理解できる。	・定期考査	・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解し、集団安全保障体制の意義を考え、日本が果たすべき役割を考察する。　・軍縮に向けた国際社会の役割や取り組みを考察する。	・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解し、集団安全保障体制の意義を考え、日本が果たすべき役割を考察する。 ・軍縮に向けた国際社会の役割や取り組みを考察する。	日本史探究
			②　思考・判断・表現 ・日本国憲法の平和主義の私たちが果たすべき責任を考察できる。 ・日本の安全保障体制の変容と日米安全保障体制に基づく安全保障体制を構築した意義とその背景にある国際社会の変化を考察できる。	・課題レポート作成 ・発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・国際社会が平和を希求し平和維持のための取り組みについて関心をもち、平和維持のための日本や国際社会の取り組みについて主体的に構想できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート・課題、問題集の提出状況			
11月 2週 日～1 2月 3週 日	①技術革新の進展と産業構造の変化 ②企業の活動 ③農林水産業の現状とこれから ④市場経済と経済運営 ⑤市場経済のしくみ	12	①　知識・技能 ・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさをともに成り立たせるために必要なことを理解できる。	・定期考査	・経済の基本的なしくみを理解し、公正で自由な経済活動を通して、市場の役割、政府の役割を考察できる。 ・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や国際機関が持続可能な開発に向けた取り組みを調査する。	・経済の基本的なしくみを理解し、公正で自由な経済活動を通して、市場の役割、政府の役割を考える。 ・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や国際機関が持続可能な開発取り組みを調査する。	家庭科
			②　思考・判断・表現 ・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさをともに成り立たせるために必要なことを考察できる。	・課題レポート作成、発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・経済の基本的なしくみを理解し、公正で自由な経済活動を通して、市場の役割、政府の役割を考察できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート・			
1月 2週 ～3月 3週 日	①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉 ③国際分業と国際貿易体制 ④国際収支と為替相場 ⑤経済のグローバル化と日本	17	①　知識・技能 ・少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府の役割を理解できる。	・定期考査	・財政や社会保障制度の意義やしくみを知り日本の財政課題や社会保障制度の課題を考察できる。 ・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や国際機関の取り組みを考察できる。	・財政や社会保障制度の意義やしくみを知り日本の財政課題や社会保障制度の課題を考察できる。 ・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や国際機関の取り組みを考察できる。	
			②　思考・判断・表現 ・財政の意義やしくみ、日本の財政の諸課題を多面的、多角的に考察できる。	・レポート作成、 ・発表活動			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や国際機関の取り組みを主体的に考察できる。	・提出物の状況、授業態度 ・プリント、レポート・課題、問題集の提出状況			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（数学科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学Ⅱ	3	全日制・普通科・2学年	新編　数学Ⅱ（数研出版）

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	第1章　式と証明 第1節　式と計算 第2節　等式・不等式の証明	12	①　知識・技能 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し，簡単な場合について計算をすることができる。 ・乗法公式及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ②　思考・判断・表現 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質，不等式の性質などを基に，等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し，証明することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート	○乗法公式と因数分解の公式について理解し，それらを用いて計算することを学ぶ。 ○パスカルの三角形と〖(a+b)〗^nの展開式における各項の係数について考察し，二項定理を用いて，式を展開できることを学ぶ。 ○分数式とその約分と通分，四則計算について，数の四則計算と関連付けて理解し，その計算方法を学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
5月 ～ 6月	第2章　複素数と方程式 第1節　複素数と2次方程式の解 第2節　高次方程式	16	①　知識・技能 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の四則計算ができる。 ・2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している。 ・因数定理について理解し，簡単な高次方程式について因数定理 ②　思考・判断・表現 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，方程式を問題解決に活用することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート	○虚数，複素数について理解し，数を拡張することに興味をもち、複素数の計算を学ぶ。 ○２次方程式の解と係数の関係について理解し，与えられた２数を解とする２次方程式を求めることを学ぶ。 ○２次関数のグラフと２次方程式の解の関係を学ぶ。 ○剰余の定理と因数定理について理解し，多項式の除法や因数分解に関して，それらを利用することができることを学ぶ。 高次方程式について理解し，因数分解，因数定理を用いて，高次方程式を解くことができることを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科 情報
7月 ～ 10月	第3章　図形と方程式 第1節　点と直線 第2節　円 第3節　軌跡と領域	28	①　知識・技能 ・座標を用いて，平面上の線分を内分する点，外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。 ・座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 ・軌跡について理解し，簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ・不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 ②　思考・判断・表現 ・座標平面上の図形について，それを方程式を用いて表現し，図形の性質や位置関係について考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，コンピュータなどを用いて軌跡や領域を座標平面上に表すなどして，問題解決に活用したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○数直線上と平面上の２点間の距離を求めることを学ぶ。 ○線分の内分・外分の意味を理解し座標の求め方を学ぶ。 ○直線の傾きと切片について理解し，１点と傾きや，２点が与えられたときの直線の方程式を求めることを学ぶ。 ○平行・垂直な２直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し，直線の方程式を求めることを学ぶ。 ○円の方程式を求めたり，方程式から円の中心の座標と半径を求めたりすることを学ぶ。 ○円と直線の共有点や共有点の個数について学ぶ。 ○軌跡について理解し，与えられた条件から軌跡の方程式を求めることを学ぶ。 不等式が表す領域を図示したり，領域を不等式に表したりすることを学ぶ。 連立不等式が表す領域を図示することができる。また，それを活用することを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
10月 ～ 1月	第4章　三角関数 第1節　三角関数 第2節　加法定理	34	①　知識・技能 ・角の概念や弧度法による角度の表し方について理解している。 ・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解している。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式，三角関数の合成について理解している。 ②　思考・判断・表現 ・三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 ・三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 ・2つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート	○角の概念を一般角まで拡張することや弧度法の意味を理解し，弧度法による扇形の弧の長さと面積を求めることができることを学ぶ。 ○三角関数の定義を理解し，一般角の三角関数の値を求めることを学ぶ。 ○一般角の三角関数の相互関係が成り立つことを学ぶ。 ○三角関数の性質を用いて，三角関数の値を求めることができることを学ぶ。 ○三角関数のグラフの性質を理解し，そのグラフをかくことができることを学ぶ。 ○単位円やグラフを利用して，三角関数を含む方程式を解くことができることを学ぶ。 ○三角関数の加法定理を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることを学ぶ。 ○三角関数の合成を理解し，それを用いて三角関数を合成することができることを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
1月 ～ 3月	第5章　指数関数と対数関数 第1節　指数関数	15	①　知識・技能 ・指数を有理数へ拡張する意義を理解し，指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ②　思考・判断・表現 ・指数の式とグラフの関係を多面的に考察することができる。 ・2つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート	○指数を整数へ拡張した指数法則について理解し，指数法則を用いて，計算することができることを学ぶ。 ○累乗根の意味を理解し，指数を有理数へ拡張した指数法則について理解し，計算することを学ぶ。 ○指数関数のグラフをかいたり，大小比較をしたりすることを学ぶ。また，指数関数を含む方程式・不等式の解法を学ぶ。 ○身近な問題を解決することに，指数関数を活用することを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科 情報
指導時間数の計		105					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（数学科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学Ⅱ	4	全日制・普通科・2学年	新編　数学Ⅱ（数研出版）

科目の目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章　式と証明 第1節　式と計算 第2節　等式・不等式の証明	10	①　知識・技能 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し，簡単な場合について計算をすることができる。 ・3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ②　思考・判断・表現 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質，不等式の性質などを基に，等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し，証明することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○乗法公式と因数分解の公式について理解し，それらを用いて計算することを学ぶ。 ○パスカルの三角形と｛(a+b)｝^nの展開式における各項の係数について考察し，二項定理を用いて，式を展開できることを学ぶ。 ○分数式とその約分と通分，四則計算について，数の四則計算と関連付けて理解し，その計算方法を学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
5月	第2章　複素数と方程式 第1節　複素数と2次方程式の解 第2節　高次方程式	14	①　知識・技能 ・数を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の四則計算ができる。 ・2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している。 ・因数定理について理解し，簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。・3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ②　思考・判断・表現 ・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，方程式を問題解決に活用することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○虚数，複素数について理解し，数を拡張することに興味をもち，複素数の計算を学ぶ。 ○２次方程式の解と係数の関係について理解し，与えられた２数を解とする２次方程式を求めることを学ぶ。 ○２次関数のグラフと２次方程式の解の関係を学ぶ。 ○剰余の定理と因数定理について理解し，多項式の除法や因数分解に関して，それらを利用することができることを学ぶ。 ○高次方程式について理解し，因数分解，因数定理を用いて，高次方程式を解くことができることを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科 情報
6月 ～ 7月	第3章　図形と方程式 第1節　点と直線 第2節　円 第3節　軌跡と領域	26	①　知識・技能 ・座標を用いて，平面上の線分を内分する点，外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。 ・座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 ・軌跡について理解し，簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ・不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 ②　思考・判断・表現 ・座標平面上の図形について，それを方程式を用いて表現し，図形の性質や位置関係について考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，コンピュータなどを用いて軌跡や領域を座標平面上に表すなどして，問題解決に活用したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○数直線上と平面上の２点間の距離を求めることを学ぶ。 ○線分の内分・外分の意味を理解し座標の求め方を学ぶ。 ○直線の傾きと切片について理解し，１点と傾きや，２点が与えられたときの直線の方程式を求めることを学ぶ。 ○平行・垂直な２直線の方程式の関に成り立つ関係について理解し，直線の方程式を求めることを学ぶ。 ○円の方程式を求めたり，方程式から円の中心の座標と半径を求めたりすることを学ぶ。 ○円と直線の共有点や共有点の個数について学ぶ。 ○軌跡について理解し，与えられた条件から軌跡の方程式を求めることを学ぶ。 不等式が表す領域を図示したり，領域を不等式に表したりすることを学ぶ。 連立不等式が表す領域を図示することができる。また，それを活用することを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
9月 ～ 10月	第4章　三角関数 第1節　三角関数 第2節　加法定理	32	①　知識・技能 ・角の概念や弧度法による角度の表し方について理解している。 ・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解している。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式，三角関数の合成について理解している。 ②　思考・判断・表現 ・三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 ・三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 ・2つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○角の概念を一般角まで拡張することや弧度法の意味を理解し，弧度法による扇形の弧の長さと面積を求めることができることを学ぶ。 ○三角関数の定義を理解し，一般角の三角関数の値を求めることを学ぶ。 ○加法定理を理解し，一般角の三角関数の相互関係が成り立つことを学ぶ。 ○三角関数の性質を用いて，三角関数の値を求めることができることを学ぶ。 ○三角関数のグラフの性質を理解し，そのグラフをかくことができることを学ぶ。 ○三角関数のグラフを利用して，三角関数を含む方程式を解くことができることを学ぶ。 ○三角関数の加法定理を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることを学ぶ。 ○三角関数の合成を理解し，それを用いて三角関数を合成することができることを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
11月 ～ 12月	第5章　指数関数と対数関数 第1節　指数関数 第2節　対数関数	28	①　知識・技能 ・指数を有理数へ拡張する意義を理解し，指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・対数の意味とその性質について理解し，対数の計算をすることができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ②　思考・判断・表現 ・指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。 ・指数・対数関数の式とグラフの関係を多面的に考察することができる。 ・2つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○指数を整数へ拡張した指数法則について理解し，指数法則を用いて，計算することができることを学ぶ。 ○累乗根の意味を理解し，指数を有理数へ拡張した指数法則について理解し，計算することを学ぶ。 ○指数関数のグラフをかいたり，大小比較をしたりすることを学ぶ。また，指数関数を含む方程式・不等式の解法を学ぶ。 ○対数の意味を理解し，対数の値を求めることを学ぶ。 ○対数の性質を理解し，それを用いて対数の計算をすることを学ぶ。 ○対数関数のグラフをかいたり，大小比較をしたりすることを学ぶ。また，対数関数を含む方程式・不等式の解法を学ぶ。 ○常用対数について理解し，それらを用いて，整数の桁数を求めることを学ぶ。 ○身近な問題を解決することに，指数・対数関数を活用することを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科 情報
1月 ～ 3月	第6章　微分法と積分法 第1節　微分係数と導関数 第2節　関数の値の変化 第3節　積分法	30	①　知識・技能 ・微分係数や導関数の意味について理解し，基本的な導関数を求めることができる。 ・関数の値の増減や極大・極小を調べ，グラフの概形をかく方法を理解している。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し，基本的な不定積分や定積分の値を求めることができる。 ②　思考・判断・表現 ・関数とその導関数との関係について考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し，積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント	○平均変化率について理解し，求め方を学ぶ。 ○極限値や微分係数の意味を理解し，求め方を学ぶ。また，接線の傾きを求めることを学ぶ。 ○導関数の意味を理解し，利用することで，微分係数を求めることができることを学ぶ。 ○曲線上のある点における接線の方程式の求め方を学ぶ。 ○関数の増減の調べ方を学ぶ。 ○極大値・極小値を求めたり，そのグラフのかき方を学ぶ。 ○関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができることを学ぶ。 ○３次関数のグラフを利用して，３次方程式の実数解の個数を調べ方を学ぶ ○不定積分の意味を理解し，求め方を学ぶ。 ○定積分を利用して，直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができることを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
指導時間数の計		140					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（数学科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 　基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 　自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 　主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学B	2	全日制・普通科・2学年	新編　数学B（数研出版）

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに， 　事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し， 　方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に 　考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり， 　評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	第1章　数列 第1節　等差数列と等比数列	14	①　知識・技能 ・数列の表し方や一般項の意味を理解し，数列の各項や，数列の一般項を求めることができる。 ・等差数列と等比数列について理解し，その和と一般項を求めることができる。 ②　思考・判断・表現 ・等差数列の和の公式を活用して，いろいろな自然数の和を考察することができる。 ・日常の事象を数学的に捉え，等比数列の考えを問題解決に活用することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・規則的に並ぶ数の列や日常の中にある数の並びに関心をもち，その規則性を発見しようとしたり，説明しようとしたりしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題，提出物の状況，ノート，プリント	・数列の表し方や一般項の意味を理解し，数列の各項や，数列の一般項を求めることを学ぶ。 ・等差数列について理解し，その一般項や和を求めることを学ぶ。 ・また，いろいろな自然数の和の考察に，等差数列の和の公式を活用することを学ぶ。 ・等比数列について理解し，その一般項や和を求めることを学ぶ。 ・身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また，発問を工夫し，いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ，数学の利便性を認識させる。	情報・理科
6月 ～ 7月	第1章　数列 第2節　いろいろな数列	13	①　知識・技能 ・記号Σを用いた和の表し方やΣの性質を理解している ・公式を利用して自然数の和や自然数の２乗の和を求めることができる。・階差数列について理解している。 ・数列の和と一般項の関係について理解し，数列の和から一般項を求めることができる。 ②　思考・判断・表現 ・Σの性質や自然数の和の公式，自然数の２乗の和の公式を利用して，いろいろな数列の和を求めることができる。 ・階差数列を利用して，もとの数列の一般項を考察することができる。・分数で表された数列の和の求め方について考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・階差数列を利用して，もとの数列の一般項を考察しようとしている。 ・分数で表された数列の和の求め方について考察しようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題，提出物の状況，ノート，プリント	・既習事項に関連付けて学ぶ。 ・記号Σを用いた和の表し方やΣの性質を理解し，自然数の和の公式や自然数の２乗の和の公式を利用して，いろいろな数列の和を求めることを学ぶ。 ・階差数列からもとの数列の一般項を求める方法を理解し，一般項を求めることを学ぶ。 ・数列の和から一般項を求めることや，分数で表された数列の和を求めることを学ぶ。 ・身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また，発問を工夫し，いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ，数学の利便性を認識させる。	情報・理科
9月 ～ 10月	第1章　数列 第3節　漸化式と数学的帰納法	9	①　知識・技能 ・漸化式について理解し，等差数列や等比数列を漸化式で表すことや，簡単な漸化式で表された数列の各項を求めることができる。 ②　思考・判断・表現 ・数列の隣接する2項間にある再帰的な関係に着目し，それを式に表すことができる。 ・自然数の性質などを数学的帰納法を用いて証明するとともに，他の証明方法と比較し，多面的に考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・数列の隣接する2項間にある再帰的な関係に着目し，それを式に表そうとしている。 ・数学的帰納法を用いた証明と他の証明方法を比較し，多面的に考察しようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題，提出物の状況，ノート，プリント	・既習事項に関連付けて学ぶ。 ・漸化式について理解し，事象の変化を漸化式で表すことや，簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めることを学ぶ。 ・数学的帰納法について理解し，自然数の性質などを数学的帰納法を用いて証明することを学ぶ。 ・身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また，発問を工夫し，いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ，数学の利便性を認識させる。	情報・理科
11月 ～ 1月	第2章　統計的な推測 第1節　確率分布	23	①　知識・技能 ・確率変数の分散及び標準偏差について理解し，確率分布からその確率変数の分散及び標準偏差を求めることができる。 ・二項分布に従う確率変数の平均，分散，標準偏差を求めることができる。 ・正規分布表を用いて確率を求めることができる。 ②　思考・判断・表現 ・確率変数の分散と確率分布の特徴の関係について考察することができる。 ・正規分布の平均や標準偏差と分布曲線の形の関係について考察することができる。 ・身近な問題を正規分布を用いて考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 ・正規分布の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題，提出物の状況，ノート，プリント	・既習事項に関連付けて学ぶ。 ・標本調査の考え方について理解を深める。 ・確率変数の分散及び標準偏差について理解し，確率分布からその確率変数の分散及び標準偏差を求めることができる。 ・二項分布について理解し，二項分布に従う確率変数の平均，分散，標準偏差を求めることができる。 ・身近な問題を正規分布を用いて考察することができる。 ・身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また，発問を工夫し，いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ，数学の利便性を認識させる。	情報・理科・社会
2月 ～ 3月	第2章　統計的な推測 第2節　統計的な推測	11	①　知識・技能 ・標本平均の分布と母集団の分布の関係について理解している。 ・母平均の区間推定の方法を理解し，母平均に対する信頼区間を求めることができる。 ・正規分布を用いた仮説検定の方法を理解している。 ②　思考・判断・表現 ・標本の大きさと標本平均の分布の関係について考察することができる。・母平均に対する信頼区間と標本の大きさの関係について考察することができる。・主張の妥当性について，仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・標本の大きさと標本平均の分布の関係について考察しようとしている。・母平均に対する信頼区間と標本の大きさの関係について考察しようとしている。・主張の妥当性について，仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察しようとしている。	・定期考査 ・小テスト ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習活動への取り組み ・課題，提出物の状況，ノート，プリント	・既習事項に関連付けて学ぶ。 ・標本平均の分布と母集団の分布の関係について理解している。 ・母平均の区間推定の方法を理解し，母平均に対する信頼区間を求めることができる。 ・正規分布を用いた仮説検定の方法を理解し，主張の妥当性について，仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察することができる。 ・身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また，発問を工夫し，いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ，数学の利便性を認識させる。	情報・理科・社会
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （理科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な知識および観察、実験などに関する技能を身につける。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自らの課題を設定し、課題解決に向けて多面的・多角的に思考し、科学的に探求することができる。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 自然の事象・現象に進んで関わり、周りと協働しコミュニケーションを取りながら、科学的に探究するために主体的に行動することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
物理基礎		全日制・普通科・2学年・理系	高等学校　物理基礎（第一学習社）

科目の目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4 月	序章 物理量の測定と扱い方	5	①　知識・技能 ・物理量の定義を理解し，さまざまな数値を10の累乗の形で表すことができる。 ・有効数字の意味を理解し，測定値の計算ができる。	小テスト 定期考査	・物理量，数値，数式のそれぞれの表し方を理解する。 ・誤差と有効数字を理解し，測定値の計算に取り組む。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・誤差が生じる原因を理解し，有効数字の桁数を考えることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・物理の基礎となる物理量の表し方や誤差と有効数字について，意欲的に学習しようとする。	課題への取り組み 授業態度			
5 月	第Ⅰ章　第1節 物体の運動	5	①　知識・技能 ・変位，速度，加速度の基本的な物理量の定義を理解し，それぞれを式で表すことができる。 ・速度の合成や，相対速度に関する現象を観察し，それぞれを式で表すことができる。 ・等加速度直線運動の特徴を踏まえ，関係式を導くことができる。	小テスト 定期考査	・物体の変位や速度などの表し方について，直線運動を中心に理解する。 ・直線上を運動している物体の合成速度や相対速度を考える。 ・物体の加速度を理解し，等加速度直線運動について式やグラフで考える。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・x－tグラフやv－tグラフから，物体の位置や速度を的確に読み取ることができる。 ・変位，速度，加速度の違いを理解し，それぞれの関係を式で表し，求めることができる。 ・物体の位置と時間などの関係をもとに，x－tグラフやv－tグラフ，a－tを描くことができる。 ・変位，速度，加速度を用いて，さまざまな物体の運動を説明することができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・身のまわりの物体の運動に関心を示し，位置や変位，速度を理解しようとする。 ・速度が変化する日常での事象について意欲的に考え，加速度とはどのような物理量であるかを考察しようとする。	課題への取り組み 授業態度			
6 月	第Ⅰ章　第1節 物体の運動 第Ⅰ章　第2節 力と運動の法則	10	①　知識・技能 ・落下する物体の運動は，鉛直下向きの加速度をもつ等加速度運動であることを理解する。 ・力の表し方とともに，さまざまな力のはたらき方を理解する。 ・質量と重さの違いを理解し，重力，弾性力を計算することができる。 ・力の合成・分解を踏まえ，力のつりあいを考えることができる。 ・作用・反作用とつりあう2力とを区別することができる。	小テスト 定期考査	・物体が空中を落下するときの運動を調べ，その特徴を理解する。 ・自由落下や鉛直投射について，式やグラフを用いて考えることができる。 ・物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ・物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い，つりあいについて理解を深める。 ・作用・反作用の法則を扱い，つりあう2力との違いを理解する。 ・運動の3法則について，観察や実験を通して理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・落下運動の特徴を理解し，式やグラフを用いて表現できる。 力のベクトルの性質を踏まえ，つりあいの式を考えることができる。 ・つりあう2力と作用・反作用の2力の違いを説明できる。 ・さまざまな状態にある物体について，はたらく力を図示することができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・物体が落下するときのようすなどに関心をもち，それらの現象を物理的に考えようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し，物理学的に理解しようとする。 ・力のつりあいや作用・反作用の法則を確認する実験などに意欲的に取り組んでいる。	課題への取り組み 授業態度			

7 月	第Ⅰ章　第2節 力と運動の法則 第Ⅰ章　第3節 仕事と力学的エネルギー	5	①　知識・技能 ・さまざまな運動状態における物体について，運動方程式を立てることができる。 ・物理における仕事，仕事率を計算することができる。	小テスト 定期考査	・運動方程式の立て方について学習し，さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・摩擦力の特徴を理解し，それを含めた運動について理解する。 ・水圧と浮力の関係について理解する。 ・仕事，仕事の原理，仕事率を学習し，物理における｢仕事｣について理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・摩擦力や空気抵抗を含めた運動について，運動方程式を立てて考察することができる。 ・運動方程式を用いて，物体がどのような運動をするかを考察できる。 ・浮力が生じるしくみを理解し，水中で物体が受ける力を的確に図示することができる。 ・物理における仕事の特徴を理解し，さまざまな力がする仕事を考えることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・摩擦力や浮力など，さまざまな力を含めた物体の運動について，物理学的に理解しようとしている。 ・日常における仕事との違いに留意し，物理における仕事について理解しようとする。	課題への取り組み 授業態度			
9 月	第Ⅰ章　第3節 仕事と力学的エネルギー 第Ⅱ章　第1節 熱とエネルギー	10	①　知識・技能 ・物理における仕事，仕事率を計算することができる。 ・運動エネルギーの大きさを計算し，物体がされた仕事との関係についても式を用いて計算できる。 ・位置エネルギーを計算することができる。 ・保存力の特徴を学習し，位置エネルギーとの関係について理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則を導くことができ，式を立てることができる。 ・熱運動と温度との関係を理解する。 ・セルシウス温度と絶対温度の関係を式を用いて理解する。	小テスト 定期考査	・運動エネルギーと仕事の関係について，式を用いて理解する。 ・位置エネルギー，保存力を学習し，仕事と関連づけてそれぞれを理解する。 ・力学的エネルギーの保存について実験などを通して学習し，法則が成り立つ条件とともに理解する。 ・熱運動，セルシウス温度，絶対温度を学習し，温度について理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 化学
			②　思考・判断・表現 ・運動エネルギーを仕事と関連づけて理解し，両者の関係を説明することができる。 ・さまざまな状態における物体の位置エネルギーを考えることができる。 ・種々の物体の運動について，力学的エネルギー保存の法則を適用することができる。 ・力学的エネルギーが保存されない場合の運動も，式を用いて考えることができる。 ・セルシウス温度と絶対温度の違いを理解し，説明することができる。 ・温度の異なる物体を接触させたときに，熱がどちら向きに移動するかを考えることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・中学校の学習内容を振り返り，運動エネルギー，位置エネルギーについて意欲的に考えようとする。 ・運動エネルギーと位置エネルギーの両者から，エネルギーについて成り立つ関係を主体的に導出しようとする。 ・エネルギーの利用例について，日常のさまざまな事象や現象と結びつけて理解している。 ・日常でよく使われる温度と絶対温度との違いを認識し，温度と熱との関係を主体的に考えようとする。	課題への取り組み 授業態度			
10 月	第Ⅱ章　第1節 熱とエネルギー	5	①　知識・技能 ・熱容量と比熱の関係を学習し，熱量の保存についての式を立てることができる。 ・物質の各状態における熱運動のようすを理解し，潜熱を計算することができる。 ・熱力学の第1法則を用いて，内部エネルギーの変化，外部とやりとりする仕事，熱を計算することができる。 ・熱機関のしくみを学び，熱効率を計算することができる。 ・エネルギー保存の法則が常に成り立つことを理解する。	小テスト 定期考査	・熱と熱量を学習したのち，熱平衡，比熱，熱容量，熱量の保存，潜熱について理解する。 ・熱量の保存を利用し，物質の比熱を測定する。 ・熱と仕事が同等であることを学習し，内部エネルギー，熱力学の第1法則を理解する。 ・熱機関と熱効率を学習し，可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・さまざまなエネルギーの移り変わりを学習したのち，エネルギーの保存について理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 化学
			②　思考・判断・表現 ・比熱と熱容量の違いを理解し，熱量の保存を利用して比熱などの測定をすることができる。 ・水を加熱していくときの，物質の状態と構成粒子の熱運動の関係について説明することができる。 ・小型ポットを振ったときなどの，熱と仕事の関係について考察することができる。 ・熱機関の基本的なしくみを理解し，その特徴を説明することができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・熱と仕事の関係について，日常における現象と結びつけて考えようとする。 ・熱力学の第1法則の意味を理解し，脱脂綿の発火など，具体的な現象に適用して考察しようとする。 ・エネルギーとその移り変わりについて，日常での利用例と関連させて理解しようとする。	課題への取り組み 授業態度			
11 月	第Ⅲ章　第1節 波の性質	10	①　知識・技能 ・水面に浮かぶ木の葉などの例をもとに，波と媒質について理解する。 ・波動実験用のばねによる観察などを通して，波の伝わり方を理解する。 ・単振動と等速円運動の関係を学習し，波の速さや振動数，波長など，基本的な波に関する物理量について理解する。 ・横波と縦波の定義を理解する。	小テスト 定期考査	・正弦波と波，振幅，波長，周期，振動数，媒質の振動など，波の要素について学習する。 ・y－xグラフ，y－tグラフのそれぞれの特徴について理解する。 ・横波，縦波の特徴や，波のエネルギーについて理解する	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・さまざまな種類の波について，波源や媒質が何かを考察できる。 ・波源の振動の仕方によってどのような波形の波ができるのかを表すことができる。 ・y－xグラフ，y－tグラフの違いを理解し，一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。 ・横波，縦波の違いを理解し，縦波を横波のように表示できる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・身のまわりには，さまざまな種類の波があることを理解しようとする。 ・ばねを伝わる波や波動実験器などの実験で，波が伝わるようすを意欲的に観察しようとする。 ・y－xグラフ，y－tグラフを自らの力で描こうと努力している。 ・横波，縦波の違いを理解し，縦波をどのようにグラフに表せるかを考えている。	課題への取り組み 授業態度			

12 月	第Ⅲ章　第1節 波の性質	5	①　知識・技能 ・2つの波が重なりあったときの作図ができる。 ・定常波ができる条件を理解している。 ・反射の仕方を理解し，反射波の作図をすることができる。	小テスト 定期考査	・波動実験器を用いた観察などを通して，重ねあわせの原理と波の独立性について理解する。 ・重なりあった波の作図などを通して，定常波が生じるしくみを理解する。 ・パルス波の反射，正弦波の反射について，反射の仕方，反射波と合成波の作図の仕方を理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・波の重ねあわせ，波の独立性を踏まえ，2つの波によって生じる波形を表現することができる。 ・定常波の特徴を踏まえ，進行波の波長や腹，節の位置などを求めることができる。 ・自由端，固定端のそれぞれにおいて，正弦波の反射によって定常波が生じることを説明できる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・波動実験器などを用いた実験において，波が重なるようすや通り過ぎるようすをよく観察し，どのような性質があるかを考察している。 ・自由端，固定端での反射の仕方を，観察などを通して物理学的に説明しようとする。	課題への取り組み 授業態度			
1 月	第Ⅲ章　第2節 音波	5	①　知識・技能 ・音波が疎密波であることを理解し，空気中における音速と温度の関係を式で表すことができる。 ・オシロスコープで表示した音波の波形を比較し，音の振動数，大きさを比べることができる。 ・うなりとは何かを理解し，その観測から回数を測定することができる。	小テスト 定期考査	・音波の伝わり方を学習し，空気中における音速と温度の関係を理解する。 ・音の3要素(音の高さ，大きさ，音色)について，音波の波形の特徴を理解する。 ・身近な現象と関連させ，音の反射について理解する。 ・うなりが生じるしくみを理解し，うなりの回数を計算することができる。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 音楽
			②　思考・判断・表現 ・音の高さ，大きさなどが，音波の波形の何で表されるかを理解する。 ・振動数が既知のおんさと未知のおんさによるうなりの観測から，未知の振動数を求めることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・身のまわりの事象や現象と結びつけ，音の伝わるようすや音が波であることの特徴を理解しようとする。 ・うなりの観測を通じて，うなりが生じるしくみを主体的に理解しようとする。	課題への取り組み 授業態度			
2 月	第Ⅲ章　第2節 音波	5	①　知識・技能 ・弦に生じる定常波の波長や振動数を式で計算することができる。 ・気柱が振動するときの定常波の波長や振動数を式で計算することができる。	小テスト	・弦に生じる振動の特徴を学習し，波の波長，振動数の関係を式を用いて理解する。 ・気柱に生じる振動の特徴を学習し，波の波長，振動数の関係を式を用いて理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 音楽
			②　思考・判断・表現 ・弦の振動における波長や振動数の関係を式で導くことができる。 ・たこ糸を用いた弦の固有振動に関する探究などを通じて，弦の固有振動数が張力と線密度とどのような関係にあるのかを考察できる。 ・閉管と開管の違いを理解し，固有振動で生じる波長と振動数の関係を式で導くことができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・ギターやトランペットなど，楽器から出る音のしくみなどに関心をもち，意欲的に学習に取り組んでいる。 ・弦の固有振動の探究など，積極的に探究活動に取り組んでいる。	課題への取り組み 授業態度			
3 月	第Ⅲ章　第2節 音波	5	①　知識・技能 ・共振，共鳴がおこるしくみを理解する	小テスト	・振り子やおんさを例に，共振，共鳴について理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 音楽
			②　思考・判断・表現 ・共鳴箱の長さが特定の値であることを理解する。 ・気柱共鳴装置を用いた探究などを通じて，おんさの振動数を測定することができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・気柱共鳴装置を用いた探究など，積極的に探究活動に取り組んでいる。	課題への取り組み 授業態度			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （理科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校
教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、自然現象に対する基本的な原理・法則を理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自然の事物・現象から問題を見出し、その結果を個人でまとめ、他者との意見交換などを通して、より科学的な概念を形成する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 自然を敬い、自然現象に進んで関わり、科学的根拠に基づいて判断する態度を身につけ、日常生活における問題発見や課題解決の場面で活かせる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
化学	2	全日制・普通科・2学年	新編化学（数研出版）
科目の目標	(1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	電池と電気分解	10	①　知識・技能 電池や電気分解のしくみに基づき、各電極における反応について理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	代表的な電池のしくみについて理解する。 電池の両極での反応式を書き、物質量などの量的な関係を計算する。 実用電池について理解する。 水溶液の電気分解について理解する。 ファラデーの法則に基づき、電気分解の量的な関係を計算する。 電気分解の工業的な利用について理解する。	身のまわりでどのような電池が利用されているか話し合う。 電池についての実験を行い、結果について話し合う。	地歴公民科
			②　思考・判断・表現 電池や電気分解における各電極での反応を反応式で書き、その量的関係の計算ができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身のまわりにある電池や、電気分解の工業的な利用について興味をもち、深く学ぼうとする。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
6月 ～ 7月	固体の構造	12	①　知識・技能 各結晶の特徴やアモルファスについて理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	結晶とアモルファスの違いを理解する。 単位格子や配位数、単位格子中の原子の数、充填率、密度について理解する。 単位格子の一片の長さから金属原子の半径を求める。 代表的なイオン結晶の構造を理解する。 ダイヤモンドと黒鉛の構造や性質の違いを理解する。 化学結合と物質の融点・沸点の関係を理解する。	身のまわりの結晶やアモルファスの例を上げ、その性質の違いについて話し合う。	
			②　思考・判断・表現 単位格子の一辺の長さから金属原子やイオンの半径を求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 結晶やアモルファスの性質に興味をもち、深く学ぼうとする。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
9月	物質の状態変化	10	①　知識・技能 粒子の熱運動について理解する。 気液平衡について理解する。 状態図について理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	気体分子の熱運動と運動エネルギー、温度の関係について理解する。 比熱や融解熱、蒸発熱を用いて状態変化に必要な熱量を計算する。 大気圧について、単位を含めて理解する。 気液平衡について理解する。 蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断する。 水と他の物質の状態図の違いについて理解する。	複数種類の蒸気圧曲線を比較し、蒸気圧や沸点の違いについて話し合う。	保健体育科 家庭科
			②　思考・判断・表現 蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断することができる。 状態図を読み取ることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 粒子の熱運動や物質の状態変化について興味をもち、深く学ぼうとする。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
10月 ～ 11月	気体	12	①　知識・技能 ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式、分圧の法則について理解する。 理想気体と実在気体について理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の体積や圧力、絶対温度を求める。 モル分率と分圧を相互に求める。 理想気体と実在気体の違いを理解する。	水上置換の実験を行い、水蒸気圧を考慮しながら結果について話し合う。	
			②　思考・判断・表現 ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の体積や圧力、絶対温度を求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 理想気体と実在気体の違いに興味をもち、深く学ぼうとする。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
12月 ～ 1月	溶液	14	①　知識・技能 水和や溶解平衡について理解する。 希薄溶液やコロイドについて理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	水和水をもつ物質の溶解度を求める。 ヘンリーの法則を用いて、気体の溶解度を求める。 蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧について理解する。 コロイドとコロイド溶液の性質を理解する。	身近なコロイドについて、その性質を含めて話し合う。	家庭科 地歴公民科
			②　思考・判断・表現 固体や気体の溶解度を求めることができる。 希薄溶液の沸点上昇度や凝固点降下度、浸透圧を求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身近なコロイドに興味をもち、深く学ぼうとする。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
2月 ～ 3月	化学反応とエネルギー	12	①　知識・技能 エンタルピーについて理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	発熱反応、吸熱反応とエンタルピー変化の正負の関係を理解する。 反応エンタルピーの種類を理解する。 エンタルピー変化を付した反応式とエンタルピー変化を表した図を作る。 ヘスの法則を利用して、目的のエンタルピー変化を求める。 光が関わる化学反応について理解する。	光が関わる身のまわりの化学的な現象について話し合う。	
			②　思考・判断・表現 ヘスの法則を利用し、エンタルピー変化を求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 化学反応に伴うエネルギーや光の放出・吸収について興味をもち、深く学ぼうとする。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（理科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
生物基礎	2	全日制・普通科・２学年	高校生物基礎（実教出版）

科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を 科学的に探究するために必要な資質・能力をり育成することを目指す。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
４月３週～５月２週目	第1章　生物の特徴 　1節　生物の多様性と共通性	8	①　知識・技能 ・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 ・生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。	（定期考査） （実験評価・レポート）	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。	・生物の共通性と多様性を話し合う。 ・原核細胞と真核細胞を学習する際に、両者の観察を行い違いを述べる。	家庭
			②　思考・判断・表現 ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見いだし表現することができる。 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。	（発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート）			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・生物の共通性を、実験や観察を通して見いだし、理解しようとする。 ・原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。	（発問評価・振り返りシート）			
５月３週～６月２週目	2節　細胞とエネルギー	8	①　知識・技能 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。	（定期考査）	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。	・代謝における物質の変化とエネルギーの出入りを説明する。	家庭
			②　思考・判断・表現 ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。	（発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート） （実験評価・レポー			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。	（発問評価・振り返りシート）			
６月３週～７月２週目	第2章　遺伝子とその働き 　1節　遺伝情報とDNA	8	①　知識・技能 ・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 ・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。	（定期考査）	・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解させる。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解させる。 ・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。 ・DNAの複製・分裂は細胞周期にあわせて行われることを理解させる。	・DNAの構造を説明する。 ・細胞分裂におけるのDNAのふるまいを説明する。	
			②　思考・判断・表現 ・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。 ・DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。	（発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート）			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 ・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。 ・細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見いだし、理解しようとする。	（発問評価・振り返りシート）			
７月３週～９月２週目	2節　遺伝情報とタンパク質の合成	7	①　知識・技能 ・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。	（定期考査） （実験評価・レポート）	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内でつねに発現しているわけではないことを理解させる	・DNAの遺伝情報がタンパク質に発言する仕組みを説明する。	家庭
			②　思考・判断・表現 ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。	（発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワーク			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。	（発問評価・振り返りシート			
９月３週～１０月２週目	第3章　ヒトのからだの調節 　1節　体内環境	6	①　知識・技能 ・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 ・腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。 ・解剖など生体を扱う技能を習得している。	（定期考査） （実験評価・レポート）	・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 ・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。	・恒常性を話し合い意見を交換する。 ・腎臓のはたらきと仕組みを説明する。。	保健体育
			②　思考・判断・表現 ・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。	（発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワーク			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。	（発問評価			

１０月 ３週～ １１月 ２週目	2節　体内環境の維持のしくみ	8	①　知識・技能 ・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。 ・実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。 ②　思考・判断・表現 ・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 ・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだし、理解しようとする。 ・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見いだし、理解しようとする。	（定期考査） （課題提出・ワークシート） （実験評価・レポート） （発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート） （発問評価・振り返りシート）	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解させる。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させる。 ・ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解させる。 ・血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。	・神経系、内分泌系について説明する。	
１１月 ３週～ １２月 ２週目	3節　免疫	8	①　知識・技能 ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 ②　思考・判断・表現 ・資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 ・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。	（定期考査） （発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート） （発問評価・振り返りシート）	・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。 ・ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。	・免疫のしくみと免疫細胞の関わりを、自然免疫、獲得免疫それぞれに説明する。	保健体育
１２月 ３週～ １月４ 週目	第4章　生物の多様性と生態系 1節　生態系とその成り立ち	6	①　知識・技能 ・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 ・植生の遷移についてその過程を理解している。 ②　思考・判断・表現 ・資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができる。 ・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・資料に基づいて、植生が変化する要因を見いだし、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。	（定期考査） （発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート） （発問評価・振り返りシート）	・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・陸上には、草原や森林などのさまざまな植生があることを理解させる。 ・植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解させる。 ・環境形成作用により土壌が形成されることを理解させる。 ・植生内の光環境の変化や土壌の発達によって遷移が進行することを理解させる。	・植物の環境形成作用が遷移の進行について、話し合う。	
２月１ 週～ ２月３ 週目	2節　植生とバイオーム	5	①　知識・技能 ・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 ②　思考・判断・表現 ・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。	（定期考査） （発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート） （発問評価・振り返りシート）	・気温や降水量の違いにより、地球上には多くのバイオームが成立していることを理解させる。 ・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。 ・バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適応していることを理解させる。 ・日本のバイオームについても、その構成種とともに理解させる。	・バイオームの定義を説明する。	社会（地理）
２月４ 週～ ３月３ 週目	3節　生態系と生物の多様性 4節　生態系のバランスと保全	6	①　知識・技能 ・生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 ・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 ・野外で行う調査・実験の方法を習得している。 ・インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。 ②　思考・判断・表現 ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。 ・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 ・世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。 ・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。	（定期考査） （実験評価・レポート） （課題提出・ワークシート） （発問評価・振り返りシート） （課題提出・ワークシート） （発問評価・振り返りシート）	・生態系における生物の種多様性について理解させる。 ・生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解させる。 ・捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解させる。 ・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させる。 ・生態系の保全の重要性について認識させる。 ・自然環境の保全に寄与する態度を育てる。	・生物の関係性については捕食と被食を中心に扱い、人間の位置づけて関係性を話し合う。	
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （保健体育科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
保健	1	全日制・普通科・2学年	現代高等保健体育（大修館書店）
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせて，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し，改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～4月 第4週	生涯を通じる健康　各段階の健康	3	①　知識・技能 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・情報を分析・評価し、議論する。 ・自分の考えやグループの考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 生涯の各段階における健康にかかわる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 生涯の各段階における健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
5月 第1週 ～5月 第4週	生涯を通じる健康　労働と健康	6	①　知識・技能 労働災害の防止には、労働環境に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理が必要であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 労働と健康にかかわる情報から課題を発見し、疾病などのリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 労働と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
6月 第1週 ～6月 第4週	社会生活と健康　環境と健康	4	①　知識・技能 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 環境と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 環境と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			

7月 第1週 ～9月 第4週	社会生活と健康　食品と健康	6	①　知識・技能 　食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われている事を理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　食品と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　食品と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
10月 第1週 ～10 月第4 週	社会生活と健康　保健医療制度及び地域の保健･医療	6	①　知識・技能 　生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
11月 第1週 ～12 月第2 週	社会生活と健康　様々な保健活動や社会的生活	3	①　知識・技能 　我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われてることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　様々な保健活動や社会的対策に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　様々な保健活動や社会的対策についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
1月 第2週 ～3月 第1週	社会生活と健康　健康に関する環境づくりと社会参加	7	①　知識・技能 　自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした、健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　健康に関する環境づくりと社会参加に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　健康に関する環境作りと社会参加についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
指導時間数の計		35					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （保健体育科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
体育	3(2)	全日制・普通科・2学年	

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに，自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第2週	体つくり運動	10 (7)	①　知識・技能 体つくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。 身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。	・観察 ・学習カード	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（豊かなスポーツライフの設計の仕方） ・保健（精神疾患の予防と回復）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 体つくり運動に主体的に取り組むとともに，互いに助け合い高め合おうとすること，一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
5月 第3週 ～ 6月 第1週	球技 （ネット型） ・ソフトテニス ・パンポン	10 (7)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（ペアワーク） ・計画の発表、実践（ペアごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
6月 第2週 ～ 6月 第5週	球技 〔ベースボール型〕 ・ソフトボール	12 (8)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			

7月 第1週 ～ 9月 第2週	水泳	12 (8)	①　知識・技能 　技術の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 　記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 ・計画の実践	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　水泳に主体的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
9月 第3週 ～ 9月 第4週	体育理論	6 (6)	①　知識・技能 　運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	・観察 ・小テスト	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・事実を正確に理解し伝達する。 ・他者の意見を解釈し自分の意見を深める。	
			②　思考・判断・表現 　運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて施行し判断するとともに他者に伝えている。	・観察 ・小テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組んでいる。	・観察 ・小テスト			
9月 第5週 ～ 11月 第1週	球技 （ネット型） ・バレーボール ・バドミントン	18 (10)	①　知識・技能 　技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 　状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 （グループワーク） ・計画の発表、実践 （グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第2週	陸上競技 ・長距離走	10 (8)	①　知識・技能 　技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、協議会の仕方などを理解している。 　記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、ペースの変化に対応して走ることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （長距離走） ・学習カード作業 ・個人目標設定	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　陸上競技に主体的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
12月 第3週 ～ 2月 第2週	球技 〔ゴール型〕 ・サッカー	18 (12)	①　知識・技能 　技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 　状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防することができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 （グループワーク） ・計画の発表、実践 （グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
2月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 （ネット型） ・ソフトテニス ・パンポン	9 (6)	①　知識・技能 　技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 　状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 （グループワーク） ・計画の発表、実践 （グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
指導時間数の計		105 (70)					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （芸術科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
美術Ⅱ	2	全日制・普通科・2年	高校生の美術2(日文)
科目の目標	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 6月 第3週	オリジナルブランド （ロゴ・マークのデザイン）	16	①　知識・技能 造形の要素の働きを理解している。 主題にあった表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表現している。	ワークシート 作品	ロゴ・マークについて学ぶ。 わかりやすく効果的なデザインとは 感情と色・造形 造形的な特徴 自分の所属する団体や架空の企業・団体の印（しるし）を新たに考案し、アクリル絵の具で彩色をして作品を仕上げる できあがった作品の鑑賞会をする。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな気持ちが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 社会におけるデザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 主体的にデザインの表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
6月 第4週 ～ 9月 第2週	感じたことを生かして② （点描画による模写から）	18	①　知識・技能 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 主題にあった表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	ワークシート 実技（Gペン・グラデーション） 作品	黒板に展示された50枚の名画の中から1枚選び、作品について感じたことや調べたことをワークシートにまとめる。 用具の使い方に慣れる。 Gペンの使い方 点描によるグラデーション 感じたことを生かして点描で名画の模写をする。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （名画を鑑賞してどんな気持ちが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。 名画作品を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 主体的に絵画・彫刻の表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
9月 第2週 ～ 11月 第2週	木彫 （レリーフ表現でペンケースの制作）	18	①　知識・技能 造形の要素の働き（レリーフ表現）を理解している。 主題にあった表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	ワークシート 実技（彫刻刀・レリーフ表現・塗装） 作品	木彫ペンケース制作の手順と技法について学ぶ レリーフ表現 用途に合った合理的なデザイン 組み立てから塗装まで計画的にレリーフ表現によるペンケースの制作に取り組む。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどのような工夫がされているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。 ペンケースの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 主体的にデザインの表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
11月 第3週 ～ 1月 第2週	重なりを生かして （スクラッチグラス画）	10	①　知識・技能 造形の要素の働きを理解している。 主題にあった表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	ワークシート 実技（ニードル・彩色の仕方） 作品	スクラッチ画制作の手順と技法について学ぶ ニードルの使い方 色彩を重ねることによる表現の広がり アイデアスケッチから彩色まで計画的にスクラッチ画の制作に取り組む。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や気持ちが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。 自然や自己、社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 主体的に絵画・彫刻の表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
1月 第3週 ～ 3月 第3週	いつまでも使いたいコップ （サンドブラスト）	8	①　知識・技能 造形の要素の働きを理解している。 主題にあった表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	ワークシート 実技（マスキング・コンプレッサーの使い方） 作品	サンドブラスト制作の手順と技法について学ぶ マスキングシートの使い方 コンプレッサーでの砂の吹き付け 自分なりのテーマを決定しコップの図案を考え、計画的にサンドブラストでのオリジナルコップ制作に取り組む。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や気持ちが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。 目的や条件から主題を生成し機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 主体的にデザインの表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （芸術科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） （3）生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びに向かう力、人間性）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
書道Ⅱ	2	全日制・普通科・2年	書Ⅱ（光村図書）
科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月 6日	隷書・篆書（漢字）	12	①　知識・技能 隷書・篆書の基本的な用筆運筆（蔵鋒・波磔等）の技法を習得している。	臨書作品	○説明を聞く ○古典の臨書（乙瑛碑・泰山刻石など） ○相互批評	相互に観察して批評し合う	地歴科
			②　思考・判断・表現 隷書・篆書の古典を鑑賞し、その書風の特徴をとらえて説明したり、毛筆で表現することができる。	臨書作品 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 古典の書風をとらえて説明したり、毛筆で表現するために自ら考え、意見を発表したり、他者の意見を取り入れたりできるようにする。	レポート			
6月 ～9月 9日	篆刻（漢字）	18	①　知識・技能 篆刻に関する用具用材（印刀や印泥など）の取り扱い方を習得している。 漢印の摸刻を通して印篆の特徴を理解する。	摸刻作品	○説明を聞く ○漢印の摸刻 ○相互批評 ○姓名印を製作する ○印譜を製作する	相互に鑑賞して批評し合う 分からない・上手くできない場合に自主的に指導者に質問する	地歴科
			②　思考・判断・表現 篆刻の古典作品を鑑賞し、その趣を取り入れて姓名印の印稿を作成し、姓名印を完成する。 印譜を製作する。	姓名印			
			③　主体的に学習に取り組む態度 印稿を相互批評して更に良い印稿に仕上げる。	印譜 レポート			
10月 ～12 月 9日	刻字（漢字）	18	①　知識・技能 刻字に関する特殊な用具用材（印刀・印床・印泥など）の取り扱いを習得している。	点画練習作品	○基本点画の刻法練習 ○原稿作成のために参考になる古典の臨書 ○原稿作成 ○刻法 ○採色 ○相互批正　鑑賞	相互に鑑賞して批評 しあう 分からない・上手くできない場合に自主的に指導者に質問する 批評会における感想発表	地歴科
			②　思考・判断・表現 選んだ文字効果的に表現する字体・構成を考えて原稿を完成することができる。	刻字原稿 刻字作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 彩色の仕方を工夫して効果的に表現することができる。 相互批評の話し合いに積極的に参加して、自分の意見を相手に正しく伝えることができる。	レポート			
1月～ 2月 6日	色砂による創作	12	①　知識・技能 原稿作成の参考となる古典の臨書を通して、効果的な表現の原稿を制作することができる。 カーボン紙・切り抜き等の技法を習得している。	臨書作品	○原稿作成のために参考になる古典の臨書 ○原稿作成 ○カーボン紙による転写 ○カッターによる切り抜き ○砂ふり ○相互批評　鑑賞	相互に鑑賞して批評 しあう 分からない・上手くできない場合に自主的に指導者に質問する 批評会における感想発表	美術
			②　思考・判断・表現 選んだ文字を効果的に表現する字体・構成を考えて創作することができる。	砂字作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 原稿を基にして配色を工夫し、他者の意見を取り入れて作品を完成する。批評会において積極的に自分の意見を発表することができる。	レポート			
2月～ 3月 5日	漢字かな交じりの書 校歌の創作	10	①　知識・技能 蓬莱切の臨書を通して連綿・変体仮名などの特徴を再確認する 教科書所載の漢字かな交じり作品のうち好きな作品を選んで臨書し、その特徴を理解する。	臨書作品	○蓬莱切の臨書 ○教科書漢字かな交じり作品の臨書 ○校歌を創作する ○相互批評 ○学習内容・反省点等をレポートにまとめる	相互に鑑賞して批評 しあう 分からない・上手くできない場合に自主的に指導者に質問する 批評会における感想発表	国語科
			②　思考・判断・表現 多賀高の校歌にふさわしい書体を選択し、漢字とかなを融合した作品を創作する。	校歌（創作作品）			
			③　主体的に学習に取り組む態度 相互批評を通して改善策を模索しより良い作品にまとめることができる。	レポート			

指導時間数の計	70

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
英語コミュニケーションII	4	全日制・普通科・2学年	MY WAY English Communication II

CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	聞くこと（L） ： 自分自身や身の回りのこと、日常生活のことなど、身近なトピックについての簡潔な説明を理解できる。 読むこと（R） ： 平易な表現を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの説明文を理解できる。 話すこと〔やりとり〕（SI） ： 身近な話題について聞いた内容に関して、質問をしたり適切に答えたりできる。 話すこと〔発表〕（SP） ： 自分に直接関わりのある話題について、補助的な手段を用いながら基礎的な表現を用い説明できる。 書くこと（W） ： 自分の身の回りの出来事や趣味などについて、個人的経験に基づいて、短い文章を書ける。（2～3文、50words程度）

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Lesson 1 Dances Around the World	13	・世界各地のさまざまなダンスについて、理解して考えを深めることができる。 ・紹介したい日本の踊りについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	保健体育 地歴科
5月	Lesson 2 Katsura Sunshine－Making the World Laugh	13	・桂三輝さんの落語についての考え方や取り組み方について、理解して考えを深めることができる。 ・日本文化について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング［発表］）	家庭科 芸術科
6月	Lesson 3 Living with Nature－Takita Asuka's Journey	13	・滝田明日香さんが行う野生動物の保護活動について、理解して考えを深めることができる。 ・絶滅の危機にある動植物の現状について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング、スピーキング［発表］）	理科 地歴公民科
7月	Lesson 4 Sesame Street	13	・『セサミストリート』に込められたメッセージについて、理解して考えを深めることができる。 ・サミストリートのキャラクターについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング［発表）	芸術科
9月	Lesson 5 From Landmines to Herbs	13	・篠田ちひろさんのカンボジアでの活動について、理解して考えを深めることができる。 ・参加してみたい国際ボランティア活動について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング［やりとり］）	地歴科
10月	Lesson 6 Murals－The Power of Public Art	13	・世界中の壁画プロジェクトについて、理解して考えを深めることができる。 ・創立記念行事で校舎の外壁に描きたい絵について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	芸術科
11月	Lesson 7 "Englishes" in the World	13	・世界のさまざまな英語について、理解して考えを深めることができる。 ・楽しみながらできる英語の学習方法について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング［発表］）	
12月	Lesson 8 Deepika Kurup —The Science Behind Clean Water	13	・世界の水問題とその解決のための取り組みについて、理解して考えを深めることができる。 ・社会問題に取り組む発明家や起業家について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	地歴科 家庭科
1月	Lesson 9 The World's Poorest President	13	・ホセ・ムヒカさんの幸せに対する考え方について、理解して考えを深めることができる。 ・幸せを感じるときについて、意見を交換してまとめ、発表することができる。	意見を交換してまとめ、発表する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング［発表］）	公民科 保健体育科
2月	Lesson 10 Living in an E-Society—The Pros and Cons	13	・eスポーツや電子書籍の長所と短所について、理解して考えを深めることができる。 ・eスポーツや電子書籍の長所と短所について、グループで情報を整理し、議論することができる。	グループで情報を整理し、議論する。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	保健体育科 情報科
3月	Reading 2 Syria's Secret Library	10	・内戦下シリアの秘密図書館についての物語について、理解して考えを深めることができる。 ・物語の登場人物にとって本や図書館はどのような存在だったのかについて、話し合うことができる。	理解して考えを深め、話し合う。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	地歴公民科
指導時間数の計		140				

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理表現2	2	全日制・普通科・2学年	BIG DIPPER English Logic and Expression （数研出版）

CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	話すこと〔やりとり〕（SI） ： 身近な話題について聞いた内容に関して、質問をしたり適切に答えたりできる。 話すこと〔発表〕（SP） ： 自分に直接関わりのある話題や、社会的な話題について、補助的な手段を用いながら基礎的な表現を用い説明できる。 書くこと（W） ： 自分の身の回りの出来事や社会的な話題について、根拠に基づいて文章を書ける。（80words程度）

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月	Part1 Lesson1 School Festival	4	・「～である［であった］」「～する［した］」「～している［していた］」などを英語で表現できる。 ・学校祭などの行事について、英語で表現できる。	・学校祭で何をしたか（したいか）について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	理科
	Part1 Lesson2 A Trip to Sapporo	4	・未来の予定や計画などについて、英語で表現できる。 ・旅行の予定や旅行中の活動などについて、英語で表現できる。	・国内旅行の計画について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	地理
	Part1 Lesson3 My Dear Friend	4	・現在における完了、経験、状態・動作の継続の意味を英語で表現できる。 ・友人のことや、これまでの経験、継続している活動などを、英語で表現できる。	・親友の１人について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
6月	Part1 Lesson4 A Dog in a Barbershop	4	・過去の状態や習慣、過去についての推量などを英語で表現できる。 ・過去の身の回りの状況や思い出などについて、英語で表現できる。	・小学校時代の経験や思い出について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson5 Japanese Food	4	・「～される」「～だと言われている」「～に喜ぶ」などを英語で表現できる。 ・食べ物や文化などについて、英語で表現できる。	・好きな日本食について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	家庭
7月 9月	Part1 Lesson6 Volunteer Activities	4	・「…に～するように勧める」「…に～させる」「…が～すること」などを英語で表現できる。 ・活動への参加などについて、英語で表現できる。	・参加したいボランティア活動について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	公共
	Part1 Lesson7 A Stage Actor	4	・「～だったと言われている」「～するほど…」「…すぎて～できない」などを英語で表現できる。 ・過去の活動や経歴、また状況などの程度について、英語で表現できる。	・見たことがある舞台や映画について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson8 I Like Singing	4	・「～すること」「～したこと」「～するのに慣れている」などを英語で表現できる。 ・自分の好きな活動などについて英語で表現できる。	・好きな活動、部活動や日常の趣味・気晴らしなどについて、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	

10月	Part1 Lesson9 Cycling	4	・「～しに行く」「～している[される]のを…する」「～しながら」などを英語で表現できる。 ・野外での活動・気晴らしなどについて英語で表現できる。	・ハイキングや遠足などの野外活動の思い出について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson10 My New Hiking Boots	4	・「同じくらい～」「より～」「X倍の～」「～すればするほど…」などを英語で表現できる。 ・自分が気に入っている持ち物などについて、英語で表現できる。	・自分の持ち物で気に入っている物について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
11月 12月	Part1 Lesson11 The Yangtze River	5	・「最も～」「何番めに～」「ほかのどの…よりも～」などを英語で表現できる。 ・さまざまな最上級の事物について、英語で表現できる。	・自分の町で有名なものについて、複数の段落からなる文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	地理
	Part1 Lesson12 My Sister's Job	5	・「～する人/物」や、「人/物」についての補足説明を、関係代名詞を用いて表現できる。 ・将来の仕事や家族のことについて、英語で表現できる。	・家族や友人、知人について、複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
1月	Part1 Lesson13 In Kansas City	5	・「～すること」、「～する場所/時」や、「場所/時」の補足説明を、関係詞を用いて表現できる。 ・印象に残っている場所などについて、英語で表現できる。	・日本の都市や町について、複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	地理
2月 3月	Part1 Lesson14 Dreaming of Space	5	・「もし～ならば[だったら]、…する[した]だろうに」と、事実と異なる仮定を英語で表現できる。 ・自分の夢などの仮定の話について、英語で表現できる。	・もしかしたら自分が行うかもしれないと想像することについて、仮定法を用いて複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson15 An Android Like You	5	・「～ならいいのに」「まるで～のように」「万一～ならば」などを英語で表現できる。 ・実現の可能性が低い願望などについて、英語で表現できる。	・自分が持っていたらいいと願望する物について、仮定法を用いて複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson16 I Left My Smartphone	5	・「～であると気づいた」「～であるかどうか尋ねた」などを英語で表現できる。 ・他人から伝え聞いた話などについて、英語で表現できる。	・先生や友人が最近言ったことについて、複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
指導時間数の計		70				

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理表現2	2	全日制・普通科・2学年	BIG DIPPER English Logic and Expression （数研出版）

CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	話すこと〔やりとり〕（SI） ： 身近な話題について聞いた内容に関して、質問をしたり適切に答えたりできる。 話すこと〔発表〕（SP） ： 自分に直接関わりのある話題や、社会的な話題について、補助的な手段を用いながら基礎的な表現を用い説明できる。 書くこと（W） ： 自分の身の回りの出来事や社会的な話題について、根拠に基づいて文章を書ける。（80words程度）

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Part1 Lesson1 School Festival	2	・「～である［であった］」「～する［した］」「～している［していた］」などを英語で表現できる。 ・学校祭などの行事について、英語で表現できる。	・学校祭で何をしたか（したいか）について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	理科
	Part1 Lesson2 A Trip to Sapporo	2	・未来の予定や計画などについて、英語で表現できる。 ・旅行の予定や旅行中の活動などについて、英語で表現できる。	・国内旅行の計画について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	地理
	Part1 Lesson3 My Dear Friend	2	・現在における完了、経験、状態・動作の継続の意味を英語で表現できる。 ・友人のことや、これまでの経験、継続している活動などを、英語で表現できる。	・親友の１人について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
5月	Part1 Lesson4 A Dog in a Barbershop	2	・過去の状態や習慣、過去についての推量などを英語で表現できる。 ・過去の身の回りの状況や思い出などについて、英語で表現できる。	・小学校時代の経験や思い出について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson5 Japanese Food	2	・「～される」「～だと言われている」「～に喜ぶ」などを英語で表現できる。 ・食べ物や文化などについて、英語で表現できる。	・好きな日本食について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	家庭
	Part1 Lesson6 Volunteer Activities	2	・「…に～するように勧める」「…に～させる」「…が～すること」などを英語で表現できる。 ・活動への参加などについて、英語で表現できる。	・参加したいボランティア活動について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	公共
6月	Part1 Lesson7 A Stage Actor	2	・「～だったと言われている」「～するほど…」「…すぎて～できない」などを英語で表現できる。 ・過去の活動や経歴、また状況などの程度について、英語で表現できる。	・見たことがある舞台や映画について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson8 I Like Singing	2	・「～すること」「～したこと」「～するのに慣れている」などを英語で表現できる。 ・自分の好きな活動などについて英語で表現できる。	・好きな活動、部活動や日常の趣味・気晴らしなどについて、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson9 Cycling	2	・「～しに行く」「～している[される]のを…する」「～しながら」などを英語で表現できる。 ・野外での活動・気晴らしなどについて英語で表現できる。	・ハイキングや遠足などの野外活動の思い出について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson10 My New Hiking Boots	2	・「同じくらい～」「より～」「X倍の～」「～すればするほど…」などを英語で表現できる。 ・自分が気に入っている持ち物などについて、英語で表現できる。	・自分の持ち物で気に入っている物について、簡単な文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
7月	Part1 Lesson11 The Yangtze River	2	・「最も～」「何番めに～」「ほかのどの…よりも～」などを英語で表現できる。 ・さまざまな最上級の事物について、英語で表現できる。	・自分の町で有名なものについて、複数の段落からなる文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	地理
	Part1 Lesson12 My Sister's Job	2	・「～する人/物」や、「人/物」についての補足説明を、関係代名詞を用いて表現できる。 ・将来の仕事や家族のことについて、英語で表現できる。	・家族や友人、知人について、複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson13 In Kansas City	2	・「～すること」、「～する場所/時」や、「場所/時」の補足説明を、関係詞を用いて表現できる。 ・印象に残っている場所などについて、英語で表現できる。	・日本の都市や町について、複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	地理

9月	Part1 Lesson14 Dreaming of Space	2	・「もし～ならば[だったら]、…する[した]だろうに」と、事実と異なる仮定を英語で表現できる。 ・自分の夢などの仮定の話について、英語で表現できる。	・もしかしたら自分が行うかもしれないと想像することについて、仮定法を用いて複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson15 An Android Like You	2	・「～ならいいのに」「まるで～のように」「万一～ならば」などを英語で表現できる。 ・実現の可能性が低い願望などについて、英語で表現できる。	・自分が持っていたらいいと願望する物について、仮定法を用いて複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
	Part1 Lesson16 I Left My Smartphone	2	・「～であると気づいた」「～であるかどうか尋ねた」などを英語で表現できる。 ・他人から伝え聞いた話などについて、英語で表現できる。	・先生や友人が最近言ったことについて、複数の段落の文章を書く。 ・書いた文章について、ペアで伝え合ったり質問したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ）	
10月	Part2 Lesson1 What's Your Favorite Dish?	2	・英語で好き嫌いを述べることができる。 ・自分の好きな物について英語で表現できる。	・好きな食べ物、嫌いな食べ物について、ペアで対話を作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	家庭
	Part2 Lesson2 Uniforms or Casual Clothes?	2	・英語で希望・欲求を述べることができる。 ・日常の希望や将来の夢を英語で表現できる。	・人生における夢について、ペアで対話を作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
	Part2 Lesson3 Project Studies Program	2	・英語で賛成・反対を述べることができる。 ・学校や町への提案に関して英語で表現できる。	・生徒が住む町にとって有益になると思われる計画について、ペアで対話を作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	地理、歴史、公共
	Part2 Lesson4 A Guitar Concert	2	・英語で勧誘・招待する、期待を述べることができる。 ・学校行事などについて英語で表現できる。	・相手の人を何かの行事に誘う対話を、ペアで作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
11月	Part2 Lesson5 Studying Abroad	2	・英語で計画・意図を述べることができる。 ・休暇の計画などを英語で表現できる。	・自分が予定・計画していることについてペアで対話を行う。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
	Part2 Lesson6 What Should I Do?	2	・英語で提案・助言を行うことができる。 ・悩み事について英語で表現できる。	・悩んでいることについてペアの相手に相談し、相手は助言をする。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価（ＳＩ）	
	Part2 Lesson7 A Korean Drama	2	・英語で程度や譲歩を述べることができる。 ・自分の体験を、程度などを含めて英語で表現できる。	・自分の好きなドラマ、映画、マンガについてペアで対話を作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
	Part2 Lesson8 Going Bird Watching	2	・英語で依頼・要請を行うことができる。 ・行事への参加依頼などを英語で表現できる。	・相手にお願いをして、相手がそれを承諾するような対話をペアで作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
12月	Part2 Lesson9 Meeting the Deadline	2	・英語で許可を求めることができる。 ・期日に関する許可などについて英語で表現できる。	・生徒が先生に許可を求める（先生と生徒の）対話をペアで作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
	Part2 Lesson10 Friendship Festival	2	・英語で感謝・喜びを述べることができる。 ・人との交流の場面で、感謝などを英語で表現できる。	・あることについて相手に感謝する対話をペアで作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
	Part2 Lesson11 Returning a Magazine	2	・英語で謝罪する・謝罪に応じることができる。 ・自分の落ち度について英語で表現できる。	・誰かがほかの誰かに誤っている状況の対話をペアで作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
1月	Part2 Lesson12 What Is Your Opinion?	2	・英語で個人的な意見を述べることができる。 ・事業計画や異文化理解などについて英語で表現できる。	・ある立場や役割に適切であるのは誰だろうかという点について、相手に意見を述べる対話をペアで作る。 ・ペアで作った対話をグループ内で発表する。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＩ・ＳＰ）	
	Part3 Lesson1 Making a Manuscript	2	・mind map を活用して、presentation 用の原稿を書くことができる。 ・原稿を読み返して推敲し、より優れた内容にすることができる。	・都道府県の名物について、プレゼンテーションを行うための原稿を書く。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ）	地理
2月	Part3 Lesson2 Making Your Presentation More Effective	2	・発表において、聞き手に理解しやすい表現や、写真・図、統計資料を活用できる。 ・ジェスチャーなどを用いて、生き生きと発表することができる。	・都道府県の名物について、プレゼンテーションを行う。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価（ＳＰ）	地理
	Part3 Lesson3 Being an Active Listener	2	・適宜メモをとりながら、発表の要点をとらえることができる。 ・発表を聞いた後、質問によって理解を深めることができる。また、質問に的確に答えることができる。	・自分が気に入っている場所について、グループ内で紹介する。 ・グループ内のメンバーはメモをとりながら、質疑応答を行う。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価（ＳＩ・ＳＰ）	地理
	Part3 Lesson4 Having a Discussion	2	・discussion の目的を理解して、適切に議論を展開できる。 ・議論のプロセスにおいて、自分の考えを理由・根拠とともに具体的に述べることができる。	・自転車免許証について、具体的な内容、長所・短所を考えて、自分の意見をグループ内で述べる。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価 （Ｗ・ＳＰ）	
3月	Part3 Lesson5 Speaking in Order	2	・提案・説明、質問・確認、賛成・反対などの内容を、口頭でわかりやすく表現できる。 ・進行役として、discussion を適切に進めることができる。	・どのようにしたら大気汚染を防ぐことができるかというtopicについて、具体的な内容、長所・短所を考えて、グループでdiscussionを行う。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価（ＳＩ）	化学
	Part3 Lesson6 Thinking Logically and from Different Angles	2	・debate によって、ものごとを論理的、多面的に考えることができる。 ・debate の手順を理解する。 c。 与えられた論題について、妥当な立論を行うことができる。	・図書館にもっとマンガ本があるべきだというtopicについて、グループ内で肯定側・否定側の立場に分かれ、debateを行うための意見を作る。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価（ＳＩ）	国語
	Part3 Lesson7 Sharpening Your Thinking Ability	2	・相手の立論について、ポイントを押さえた反駁を行うことができる。 ・debate の聞き手として、肯定側・否定側の発言を適切に評価することができる。	・グループ内でdebateを行い、肯定側立論に対し否定側は反論を、否定側の立論に対し肯定側も反論を考え、debateを行う。	・活動の観察 ・パフォーマンス評価（ＳＩ）	
指導時間数の計		70				

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （情報科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校
教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
情報Ⅰ	2	全日制・普通科・2学年	高校情報　改訂版　情報Ⅰ（第一学習社）
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 3週 6日	オリエンテーション 第1章　情報社会の問題解決 1　情報とメディアの特徴 2　問題解決 3　発想法・思考法 4　情報モラル 5　個人の情報を守る 6　情報セキュリティ 7　知的財産 8　情報社会を支える技術 9　情報社会の課題とこれから	6	①　知識・技能 問題解決の考え方について理解し、個人情報保護法や不正アクセス禁止法などの法規による安全対策についても理解している。 ②　思考・判断・表現 問題解決のためにPDCAを具体例を挙げて説明したり、個人情報の漏洩の例について説明したりすることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 情報の定義について興味・関心を示している。また、法規による安全対策の重要性に興味・関心をもって取り組んだり、特許の事例について興味・関心を持って特許情報を検索する活動に積極的に取り組んだりしている。	ワークシート 定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート 授業時の見取り	・情報や情報の特徴（残存性，複製性，伝播性）、情報の定義と分類、メディアとその特性について学ぶ。 ・問題解決の考え方、問題解決の手順、問題解決の手法について学ぶ。 ・情報セキュリティ、法規による安全対策、情報漏洩とその対策について学ぶ。 ・個人情報とプライバシー、個人情報の活用、匿名加工情報の利用について学ぶ。 ・知的財産権の概念（知的財産権の分類，産業財産権	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	公民科
5月 2週 4日		4	①　知識・技能 著作者と伝達者の権利についての法規やルールについて理解している。また、著作物の利用や著作権法の権利制限規定、さらには著作物の利用について理解している。 ②　思考・判断・表現 著作権法の権利制限規定の意義について考え、討議することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 著作権侵害をしないような活動を計画することができたり、著作物の利用に関して著作権を侵害しないように取り組んでいたりしている。	ワークシート 定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート 授業時の見取り	・著作権（著作権（財産権），著作者人格権）、著作物の利用，著作権の侵害、著作物の利用について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	公民科
5月 2週 4日	第2章　デジタル化と情報デザイン 10　コミュニケーション 11　コンピュータ情報の表現 12　数の表現 13　2進数の計算 14　文字の表現 15　音の表現 16　画像の表現 17　データの圧縮と動画の表現 18　情報デザイン 19　社会における情報デザイン 20　情報デザインの工夫① 21　情報デザインの工夫② 22　情報デザインの工夫③ 23　情報デザインの実践	4	①　知識・技能 伝播メディアや成果メディア、情報デザインの意味について理解している。 ②　思考・判断・表現 コミュニケーションにおける同期・非同期、直接・間接を適切に分類できたり、文章を視覚化したり、レイアウトを工夫したりして表現することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 電子メール作成における作法を積極的に身に付けようとしていたり、情報をわかりやすく伝達するために自ら改善しようとしたりしている。	ワークシート 定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート 授業時の見取り	・コミュニケーションの形態の分類や手段の特性、コミュニケーションとメディア、メディアリテラシーについて学ぶ。 ・情報デザインの意味、視覚的な表現の工夫について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	数学科
6月 3週 6日		6	①　知識・技能 Webページの特徴や作成方法について理解できる。また、HTMLタグやCSSセレクタの働きを理解できる。 ②　思考・判断・表現 Webサイトの情報構造を考え、適切に設計することができる。また、意図したデザインにするためのHTMLタグやCSSセレクタを適切に選択できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 Webページの制作に意欲的に取り組んでいる。閲覧数を増やすための方法を提案することができる。	ワークシート 定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート 授業時の見取り	・Webサイトの設計やWebページの構成、HTMLの基礎、Webページの制作、閲覧数を増やす工夫について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	数学科
7月 3週 6日		6	①　知識・技能 アナログとデジタルのそれぞれの特徴や違いを理解している。また、２進数や10進数、16進数をそれぞれ相互に変換する方法を理解し、特に２進数の簡単な加算と減算について理解している。 ②　思考・判断・表現 アナログデータとデジタルデータを比較し、その違いについて説明することができる。さらに２進数、10進数、16進数を用いて、目的に応じて適切に表現することができ、組み合わせ回路の真理値表を適切に表現できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ディジタルの理解を深めようと、２進数や16進数の演算に意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート 授業時の見取り	・アナログ・デジタル・デジタルデータの特徴、情報量・ビット・バイト、AD変換，DA変換について学ぶ。 ・数値の表現、負の数や実数の表現、文字の表現について学ぶ。 ・２進数で表された数値の計算、論理回路、加算器について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	数学科

9月 3週 6日		6	①　知識・技能 音やデジタル化（標本化、量子化、符号化）の仕組みについて理解している。また、加法混色や減法混色、解像度、階調について理解している。そして、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、クロック周波数から１秒間に処理できる命令の数を計算することができる。	ワークシート 定期考査	・音のデジタル化のしくみ、標本化周波数と量子化の関係、標本化定理について学ぶ。 ・光の三原色・色の三原色・解像度・階調、画像のデジタル化のしくみ、ラスタ形式とベクタ形式の違いについて学ぶ。 ・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェア、オペレーティングシステムの機能について学ぶ。 ・コンピュータ内部の動作、CPUの性能を表すクロック周波数、コンピュータにおける演算誤差について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	
			②　思考・判断・表現 標本化周期や標本化周波数を音質とデータ量に関連付けて説明することができる。また、画像のデジタル化（標本化、量子化、符号化）について説明することができる。CPUの動作と演算の仕組みについて理解し、CPUの処理能力の尺度であるクロック周波数について説明することができる。	ワークシート 定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 音のデジタル化の学習や加法混色の実験、ハードウェアとソフトウェアの学習について興味・関心をもって取り組んでいる。さらに、計算結果に誤差が生じることを確認する実習について興味を持っている。	ワークシート			
10月 3週 6日	第3章　コンピュータとプログラミング 24 コンピュータのなりたち 25 演算のしくみ 26 プログラミングのなりたち 27 アルゴリズムのなりたち	6	①　知識・技能 LANとWAN、集中処理と分散処理の違いを理解し、説明することができる。また、クライアントとサーバの関係、ドメイン名の管理の仕組みを理解している。データベースやDBMSについて理解している。	ワークシート 定期考査	・LANとWAN，集中処理と分散処理、サーバの利用について学ぶ。 ・IPアドレス、ドメイン名と名前解決、ネットワークの経路について学ぶ。 ・Webページの閲覧の仕組み、電子メールの送受信の仕組みについて学ぶ。 ・情報システムの例について学ぶ。 ・データベースとその役割、蓄積されたデータの活用について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	
			②　思考・判断・表現 IPv4やIPv6の表記について理解し、２進や10進、16進数で表現できる。Webページの仕組みについて、データの流れを追いながら説明できたり、身の回りの情報システムについて簡単にその機能を説明することができたりする。	ワークシート 定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身近なコンピュータシステムについて興味・関心を持ち、pingコマンドを使った実習に意欲的に取り組んでいる。電子メールの仕組みの学習や、身の回りの情報システムについて興味・関心を示している。また、オープンデータをダウンロードして分析する実習に意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 授業時の見取り			
11月 2週 4日	28 プログラミングの基礎① 29 プログラミングの基礎② 30 プログラミングの発展編(配列) 31 プログラミングノ発展編(関数) 32 アルゴリズムの工夫 33モデルとモデル化 34 シミュレーション	4	①　知識・技能 テーブル、レコード、フィールド、リレーションシップについて理解したり、不正アクセス行為についてどのようなものがあるかを理解したりしている。さらに、偶数パリティと奇数パリティの違いを理解している。	ワークシート 定期考査	・リレーショナルデータベースの特徴、リレーショナルデータベースの操作について学ぶ。 ・パスワード管理、コンピュータウイルス，ウイルス対策ソフトについて学ぶ。 ・不正アクセスへの対策、フィルタリング，電子透かしなどの技術を学ぶ。 ・パリティビットについて	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	
			②　思考・判断・表現 SQLを使ったデータの抽出方法を説明できる。また、パスワードの重要性やコンピュータウイルスについて正確にまとめられ、電子すかしの技術を説明することができる。	ワークシート 定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 リレーショナルデータベースの学習に意欲的に取り組んでいる。パスワードの重要性について関心を持っている。	ワークシート 授業時の見取り			
11月 2週 4日		4	①　知識・技能 オープンデータには、CSVなど様々な形式があることについて理解している。また、収集したデータを結合して、新たな表を作成することができる。表計算ソフトウェアの関数を理解し、関数を使って目的の量を計算することができる。	ワークシート 定期考査	・データの収集、数値データの整理、文字データと画像データの整理について学ぶ。 ・表計算ソフトウェアの関数の利用、表計算ソフトウェアによるデータの可視化、データの並べ替えや抽出をする方法について学ぶ。		
			②　思考・判断・表現 画像認識の実例について説明することができる。また、必要な情報を得るための適切なグラフを選択することができる。	ワークシート 定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 表計算ソフトやテキストマイニング、画像認識に興味・関心をもっており、意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 授業時の見取り			
12月 3週 6日		6	①　知識・技能 表計算ソフトウェアの関数を使って統計量を計算したり、ヒストグラムや箱ひげ図によるデータの分析方法について理解したりしている。また、表計算ソフトウェアを使って移動平均を計算し、グラフ表示ができ、モデル化の目的や手順、モデルの分類方法について理解している。	ワークシート 定期考査	・統計量とその計算方法、ヒストグラムや箱ひげ図によるデータ分析、尺度水準について学ぶ。 ・時系列分析、回帰分析、最小二乗法について学ぶ。 ・モデル化とシミュレーション、確定的モデル、確率的モデルについて学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	数学科
			②　思考・判断・表現 おもな基本統計量についてや、移動平均についてその方法について説明することができる。また、回帰分析や相関係数について説明することができ、モデルの分類に関して身のまわりの具体的な事例で説明することができる。	ワークシート 定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 表計算ソフトや最小二乗法の学習に興味・関心を示しており、意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 授業時の見取り			
1月 3週 6日	第4章　ネットワークとデータ活用 35 ネットワークとインターネット 36 情報通信のしくみ 37 クライアントとサーバ 38 www 39 暗号 40 情報セキュリティを守る技術 41 情報システム 42 データベース 43 データ 44 データの分析 45 データの可視化 46 できストの分析 47 データの活用	6	①　知識・技能 アルゴリズムの基本とプログラムの意味を理解し、プログラム作成の手順について理解することができる。簡単な基本構造のプログラムを理解し、作成することができる。また、プログラムにおける変数の役割について理解している。さらに、配列の役割や要素、添字について理解し、その添字によって要素を指定する方法を正しく理解している。	ワークシート 定期考査	・アルゴリズムとプログラミング、プログラミング言語の分類、プログラミングの流れについて学ぶ。 ・プログラムの基本構造（順次構造，選択構造，繰り返し構造）、演算子や変数、プログラム作成上の基本ルールについて学ぶ。 ・配列の仕組み、一次元配列を使ったプログラム、二次元配列を使ったプログラムについて学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	
			②　思考・判断・表現 アルゴリズムを文章やフローチャートなどの図で表現することができる。また、構文エラー、実行時エラー、論理エラーの違いや、様々な演算子の機能について説明することができる。配列の宣言、値の代入の方法を説明することができ、配列を利用した効率のよいプログラムを考え作成することができる。	ワークシート 定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 基本構造のプログラムや配列を利用した効率のよいプログラムの作成を意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 授業時の見取り			
2月 3週 6日		6	①　知識・技能 関数の概念、関数の種類、関数の定義と呼び出す方法について理解している。また、線形探索のアルゴリズムを理解している。	ワークシート 授業時の見取り	・関数の機能、関数の定義と呼び出す方法、グローバル変数とローカル変数について学ぶ。 ・線形探索について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	
			②　思考・判断・表現 組み込み関数とユーザ定義関数の違いについて説明できる。また、定義側と呼び出す側で引数や戻り値を使ったデータのやり取りの仕方を説明できる。さらに、配列の添字の使い方を適切に考えて使用することができる。	ワークシート 授業時の見取り			
			③　主体的に学習に取り組む態度 探索プログラムの作成に意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 授業時の見取り			
3月 3週 6日		6	①　知識・技能 二分探索のアルゴリズムを理解したり、交換法による整列のアルゴリズムを理解したりしている。比較回数と交換回数を正しく判断して計算することができ、選択法による整列のアルゴリズムを理解している。	ワークシート 授業時の見取り	・二分探索、探索プログラムの作成方法について学ぶ。 ・交換法による整列、選択法による整列、整列プログラムの作成について学ぶ。	ワークシートをとおして、自らの考察や解釈、概念などを論理的に記述したり、他者に説明したりする。 また、実習を取り入れた際には、個人活動とグループ活動をにおいて、他者と協働しながら問題の発見・解決を行う過程の中で、互いに自らの考察などを説明し、理解を深めていく。	
			②　思考・判断・表現 下限値、上限値、中央値、探索値の関係を正しくとらえることができる。選択法における交換回数を減らす工夫を説明することができる。	ワークシート 授業時の見取り			
			③　主体的に学習に取り組む態度 整列プログラムの作成に意欲的に取り組んでいる。	ワークシート 授業時の見取り			
指導時間数の計		70					